

住宅性能診断士 ホームズ君

構造EX

Ver.5.00



簡単マニュアル

ホームズ君「構造EX」 Ver5.00 - [伏図次郎【2階】3.HK5]

ファイル(F) マニュアル(M) サポート(S) ヘルプ(H)

新規作成 開く 保存 使用したデータの履歴 閉く クリア 2025 法改正 ヘルプ お知らせ マイページ ネットワーク管理 ポート設定 同合せ 動画 マニュアル 終了

建物概要 下絵読込 CAD基本入力 建物コード 3 建物名 伏図次郎【2階】 備考

2025年法改正対応

建築基準法

- 基準法壁量計算
- 壁の配置 (四分割法/偏心率)
- 柱頭柱脚接合部
- 柱の小径
- 構造安全性チェック
- 確認申請
- 構造3Dビューア

住宅性能表示・長期優良住宅

1. 構造の安定
 - ① 壁量計算
 - ② 壁の配置 (四分割法/偏心率)
 - ③ 床倍率
 - ④ 接合部
 - ⑤ オプション 横架材のチェック
 - ⑥ オプション 基礎のチェック
5. 省エネ
7. 光・視環境
10. 防犯

2. 火災時の安全
3. 劣化の軽減
4. 維持管理
6. 空気環境
8. 音環境
9. 高齢者等

長期優良住宅用 設計内容説明書

耐震等級

構造3Dビューア

伏図 梁せい算定 オプション

荷重・外力

構造区画

2階小屋伏図

2階床伏図

1階床伏図

基礎伏図

梁せい計算

構造3Dビューア

許容応力度計算 オプション

木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)

荷重・外力

基礎伏図

構造区画

柱・水平構面

3階小屋伏図

特殊形状

3階床伏図

許容応力度計算

2階床伏図

面材詳細計算法 オプション

1階床伏図

トラス オプション

構造3Dビューア

拡張機能

建物情報をプログラム間で共有し、構造EXのデータとして一元管理します。

wallstat連携 オプション

省エネ診断 エキスパート

パッシブ設計 オプション

ホームズ君シリーズ データ連携

すまいの かんたん プレゼン

あっと 簡単見積

INTEGRAL®

株式会社インテグラル

《目次》

マニュアル一覧.....	2
適用範囲.....	3
適用対象外の建物.....	3
概要.....	2
システムの流れ（作業フローチャート）.....	4
起動ライセンスの選択.....	5
1. メインメニュー.....	6
1-1 新規作成、ファイルを開く、保存.....	6
1-2 建物概要.....	6
1-3 [2025年基準]必要壁量・柱の小径設定.....	7
2. CAD入力.....	8
2-1 壁.....	8
2-2 部屋名称.....	10
2-3 開口部.....	10
2-4 開口高さ.....	10
2-5 開口タイプ.....	11
2-6 建築基準法ナビ・品確法耐震等級ナビ.....	12
2-7 壁材種.....	14
2-8 筋かい.....	15
2-9 柱.....	15
2-10 屋根（手入力・編集）.....	16
2-11 バルコニー、小屋裏収納.....	17
2-12 面積編集.....	17
2-13 寸法線.....	18
2-14 平面図印刷.....	18
3. 建築基準法.....	19
3-1 [2025年基準]壁量計算.....	19
3-2 [2000年基準]壁量計算.....	20
3-3 壁の配置（四分割法/偏心率）.....	21
3-4 接合部（N値計算）.....	22
3-5 [2025年基準]柱の小径.....	24
3-6 [2000年基準]柱の小径.....	25
3-7 確認申請.....	26
4. 住宅性能表示制度.....	27
4-1 [2025年基準]壁量計算（住宅性能表示）.....	27
4-2 [2000年基準]壁量計算（住宅性能表示）.....	28
4-3 壁の配置（四分割法/偏心率）.....	29
4-4 床倍率.....	29
4-5 接合部（N値計算/筋かい接合部/通し柱/外周横架材接合部）.....	31
4-6 横架材、基礎のチェック（※オプション機能/別売）.....	33
4-7 耐震等級チェック.....	34
5. 便利機能.....	35
5-1 吹出し入力.....	35
5-2 画像追加入力.....	35
5-3 3D確認.....	36
5-4 プラン選択.....	36
5-5 文字移動.....	36
5-6 壁材種設定.....	37
5-7 DXF下絵表示、平面図・立面図DXF出力.....	37
5-8 CEDXMファイル読込、CEDXMファイル出力.....	38
5-9 マイホームデザイナーデータ読込、マイホームデザイナーデータ出力.....	38
5-10 リアルタイム壁量判定.....	38
5-11 構造安全性チェック.....	39
5-12 ヘルプ表示.....	40
5-13 構造3Dビューア.....	40
5-14 サポートへメール送信.....	41
5-15 長期優良住宅用 設計内容説明書.....	41

マニュアル一覧

- ホームズ君「構造EX」には下記の7種類の操作マニュアルがあります。
- 操作マニュアルはすべて「動画マニュアル」ページで確認できます。



名前と表紙	内容
① 簡単マニュアル 	現在ご覧いただいているマニュアルです。 ホームズ君「構造EX」の主な機能、及び操作方を解説します。 より詳細な操作方法については「②操作マニュアル(基本編)」を参照ください。
② 操作マニュアル(基本編) 	ホームズ君「構造EX」の主な機能、及び操作方を「①簡単マニュアル」よりも詳細に解説します。
③ 操作マニュアル(伏図・梁せい算定) 	伏図入力、及び梁せい算定機能の内容や操作方を解説します。 ※伏図・梁せい算定はオプション機能(別売り)となります。
④ 操作マニュアル(屋根入力) 	屋根の入力方法を実例を通して解説します。 本マニュアルでは ■ 寄棟母屋下がりの屋根 ■ 入母屋の屋根 を例としています。
⑤ 操作マニュアル(許容応力度計算) 	許容応力度計算機能の操作方を解説します。 ※許容応力度計算はオプション機能(別売り)となります。
⑥ 操作マニュアル(トラス) 	トラス機能の操作方を解説します。 ※トラスはオプション機能(別売り)となります。
⑦ 操作マニュアル(wallstat連携) 	wallstat連携の操作方を解説します。 ※wallstatは下記のURLからダウンロードできます。 https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/~nakagawa/

適用範囲

- 構法：在来軸組木造住宅、金物工法住宅（金物工法は「伏図・梁せい算定オプション」が必要です。）
- 階数：3階建てまで
 - ・ 建築基準法（仕様規定）：2階建てまで
 - ・ 住宅性能表示（仕様規定）：2階建てまで
 - ・ 許容応力度計算：3階建てまで判定可能
- 建物規模：X=100m Y=100m
- モジュール幅：910mm（909mm、1000mmなど任意に変更可能）

- 入力可能な構造、形状
 - ・ 斜め壁
 - ・ 間崩れ壁
 - ・ ロフト（小屋裏収納）
 - ・ オーバーハング
 - ・ インナーバルコニー
 - ・ 段窓
 - ・ パラペット
 - ・ スキップフロア（『木造軸組構法住宅の許容応力度設計（2017年版）』p.279～p.281の条件に該当するスキップフロア）
 - ・ 制震ダンパー
 - ・ 傾斜軸組
 - ・ 独立基礎

適用対象外の建物

以下の建物はホームズ君「構造EX」では入力、計算を行うことができません。あらかじめご了承ください。

- ・ 四方を壁で囲まれた中庭のある建物
- ・ 平屋でスキップフロアのある建物
- ・ ペントハウス
- ・ 大屋根（条件付で対応可能な場合有り）
- ・ 傾斜地などで基礎梁が接するGLに段差がある場合（偏土圧を受ける基礎）
- ・ 部分的に深基礎のある建物
- ・ ツインタワー等いずれかの階が2棟に分かれている建物
- ・ 地下室のある建物
- ・ エレベーター（水平荷重の検討）

概要

ホームズ君「構造 EX」は、建築基準法の確認申請時に必要となる耐震性能の検討、及び住宅性能表示制度の全 10 項目に対応（※一部オプション）した等級判定を行うことができます。

建築基準法

●2025 年基準

■壁量計算

建築基準法施行令第 46 条「構造耐力上必要な軸組み等」の第 4 項および昭和 56 年建設省告示第 1100 号第三 改正(令和 6 年国土交通省告示第 447 号第 1 条)に基づく壁量計算を行います。

■壁の配置（四分割法/偏心率）

昭和 56 年建設省告示第 1100 号第四 改正（令和 6 年国土交通省告示第 447 号第 1 条）に基づく四分割法、および偏心率計算により、壁の配置バランスの判定を行います。

■柱頭柱脚接合部（N 値計算）

建築基準法施行令第 47 条、平成 12 年建設省告示第 1460 号第 2 号 改正（令和 6 年国土交通省告示第 447 号第 4 条）に対応した N 値計算を行い、接合部金物の判定を行います。

■柱の小径

建築基準法施行令第 43 条、平成 12 年建設省告示第 1349 号第一 改正(令和 6 年国土交通省告示第 447 号第 3 条)に対応したチェックを行います。

●2000 年基準

■壁量計算

建築基準法施行令第 46 条「構造耐力上必要な軸組等」の第 4 項に基づく壁量計算を行います。

■壁の配置（四分割法/偏心率）

建築基準法施行令第 46 条、建設省告示第 1352 号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づく四分割法、および偏心率計算により、壁の配置バランスの判定を行います。

■接合部（N 値計算）

建築基準法施行令第 47 条、建設省告示第 1460 号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」の第 1 号における筋かい接合部の判定、及び第 2 号に対応した N 値計算を行い、接合部金物の判定を行います。

■柱の小径

建築基準法施行令第 43 条「柱の小径」に対応したチェックを行います。

■シックハウス対策

建築基準法第 28 条の第 2 項「居室内における化学物質の発散に対する衛生上の措置」に対応した換気性能のチェックを行います。

■伏図・梁せい算定（※1）

建築基準法施行令第 82 条に定められた許容応力度計算に基づき、横架材断面の検定を行います。

■許容応力度計算（※2）

『木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年版）』に準拠した許容応力度計算を行います。

住宅性能表示

●2025年基準

■壁量計算

平成13年国土交通省告示第1347号第5 1-1(3)ホ① 改正(令和6年国土交通省告示第1000号)に基づく壁量計算を行います。

■壁の配置(四分割法/偏心率)

昭和56年建設省告示第1100号第四 改正(令和6年国土交通省告示第447号第1条)に基づく四分割法、および偏心率計算により、壁の配置バランスの判定を行います。

■接合部(N値計算/筋かい接合部/通し柱と胴差の接合部/外周横架材接合部)

建築基準法施行令第47条、平成12年建設省告示第1460号第2号 改正(令和6年国土交通省告示第447号第4条)に対応したN値計算、および平成13年国土交通省告示第1347号第5 1-1(3)ホ④ 改正(令和6年国土交通省告示第1000号)に基づき、接合部金物の判定を行います。

●2000年基準

■壁量計算

平成13年国土交通省告示第1347号第5 1-1(3)ホ①に基づく壁量計算を行います。

■壁の配置(四分割法/偏心率)

建築基準法施行令第46条、建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づく四分割法、および偏心率計算により、壁の配置バランスの判定を行います。

■接合部(N値計算/筋かい接合部)

建築基準法施行令第47条、平成12年建設省告示第1460号第2号に対応したN値計算、および平成13年国土交通省告示第1347号第5 1-1(3)ホ④に基づき、接合部金物の判定を行います。

■床倍率

住宅性能表示制度で定められた床倍率の判定を行います。
水平構面の仕様から床倍率を計算し等級判定を行います。

■基礎のチェック

住宅性能表示制度、及び建築基準法施行令第38条・建設省告示第1347号に対応した基礎のチェックを行います。

■横架材のチェック(※1)

建築基準法施行令第82条に定められた許容応力度計算に基づき、横架材断面の検定を行います。

■温熱環境(省エネルギー性能判定)(※3)

外皮平均熱貫流率(UA値)、冷房期の平均日射熱取得率(ηA 値)による省エネ基準(外皮性能)の判定と等級判定を行います。

■光・視環境

住宅性能表示制度で定められた光・視環境の等級判定を行います。

■防犯

住宅性能表示制度で定められた防犯の等級判定を行います。

※1) 伏図・梁せい算定オプションで対応 ※2) 許容応力度計算オプションで対応 ※3) 「省エネ診断エキスパート」で対応

システムの流れ (作業フローチャート)

1. メインメニュー

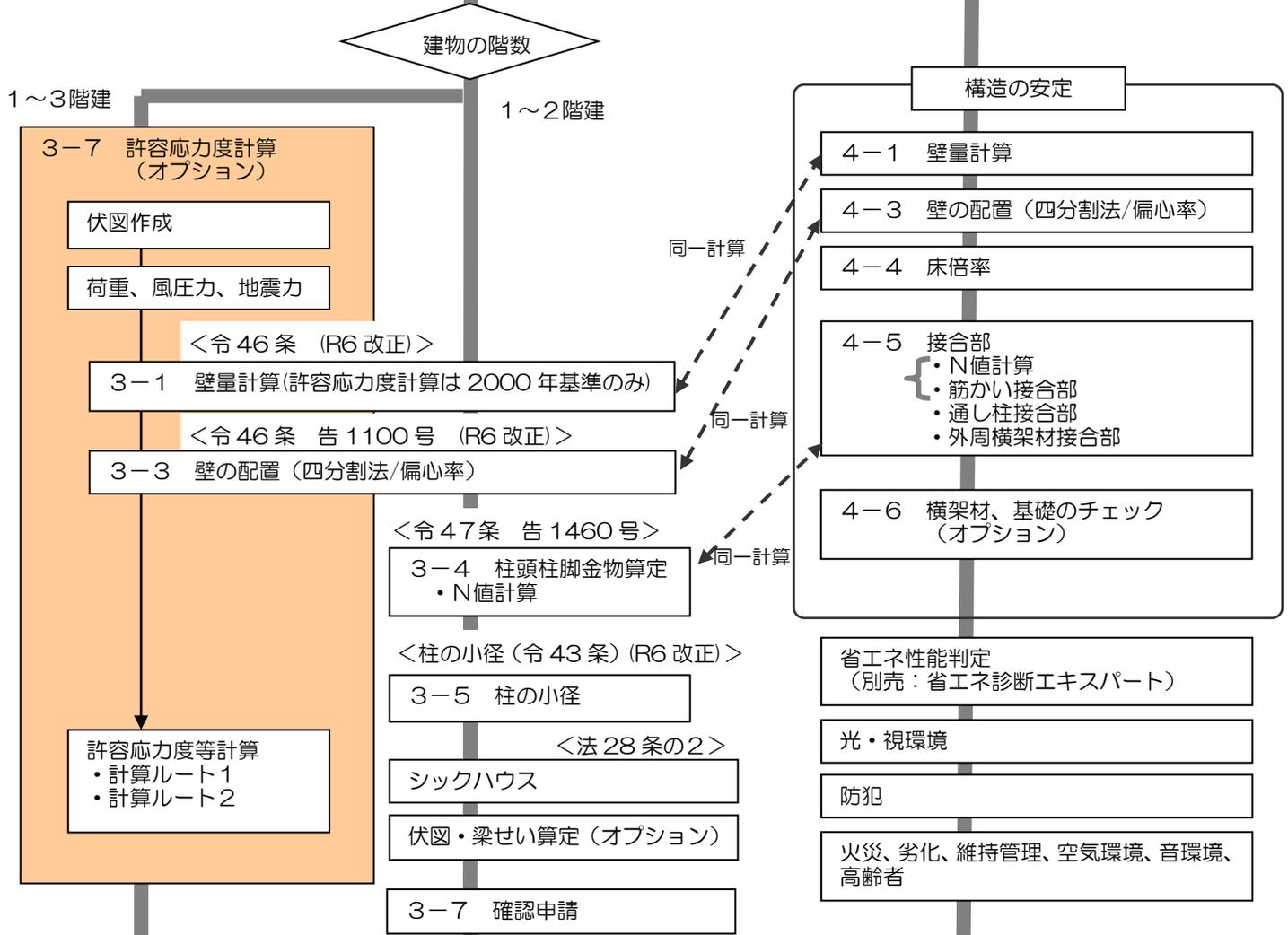
- 1-1 新規作成、ファイルを開く、保存
- 1-2 建物概要

2. CAD入力

2-1 壁	2-2 部屋名称	2-3 開口部	2-4 開口属性	2-5 建具仕様
2-6 壁材種	2-7 壁材種	2-8 柱	2-9 等級ナビ	2-10 屋根
2-11 ハルコニー・小屋裏収納		2-12 面積編集	2-13 寸法線	2-14 CAD平面図印刷

3. 建築基準法

4. 住宅性能表示制度

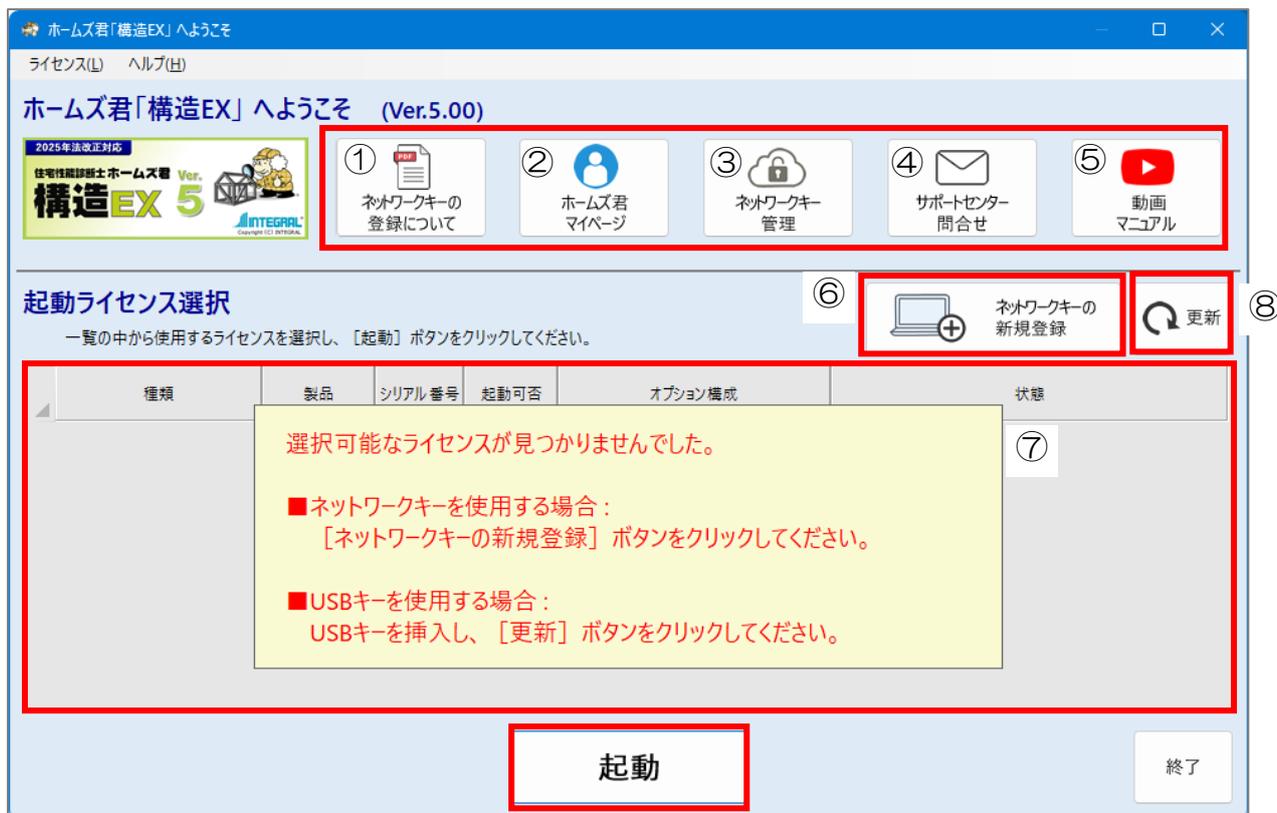


5. 便利機能



起動ライセンスの選択

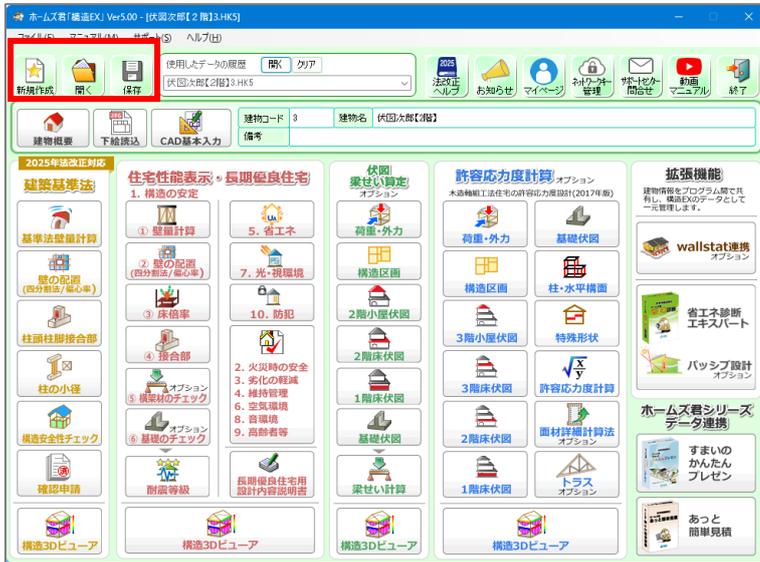
ホームズ君「構造 EX」を起動すると、起動ライセンスの選択画面が表示されます。



- ① ネットワークキーで使用する場合の登録方法を表示します。
- ② マイページを表示します。
(マイページでは、インストール用プログラムのダウンロード、ネットワークキーの管理、安心フォーラム会員専用の動画視聴などが行えます。)
- ③ マイページのネットワーク管理画面を表示します。
(ネットワークキーを登録した PC の変更などが行えます。)
- ④ サポートセンターのメール問合せフォームを表示します。
- ⑤ ホームズ君製品の操作マニュアルやセミナー動画の Web ページを表示します。
- ⑥ ホームズ君をネットワークキーで起動するための「シリアル番号」および「ネットワークキー用登録コード」を入力します。
- ⑦ ネットワークキーの登録が完了している場合、または USB キーを PC に挿入している場合、そのライセンス情報 (製品名やシリアル番号、オプション構成) が表示されます。
起動したいライセンスを選択して起動します。
- ⑧ 「起動ライセンス選択」画面の更新を行います。
主に以下の場合にお使いください。
 - ・ USB キーを挿入せずに起動してしまった場合
 - ・ 別の PC で使用中のネットワークキーを強制終了し、現在の PC で使用する場合
- ⑨ ⑦ で選択したライセンスでホームズ君を起動します。

1. メインメニュー

1-1 新規作成、ファイルを開く、保存

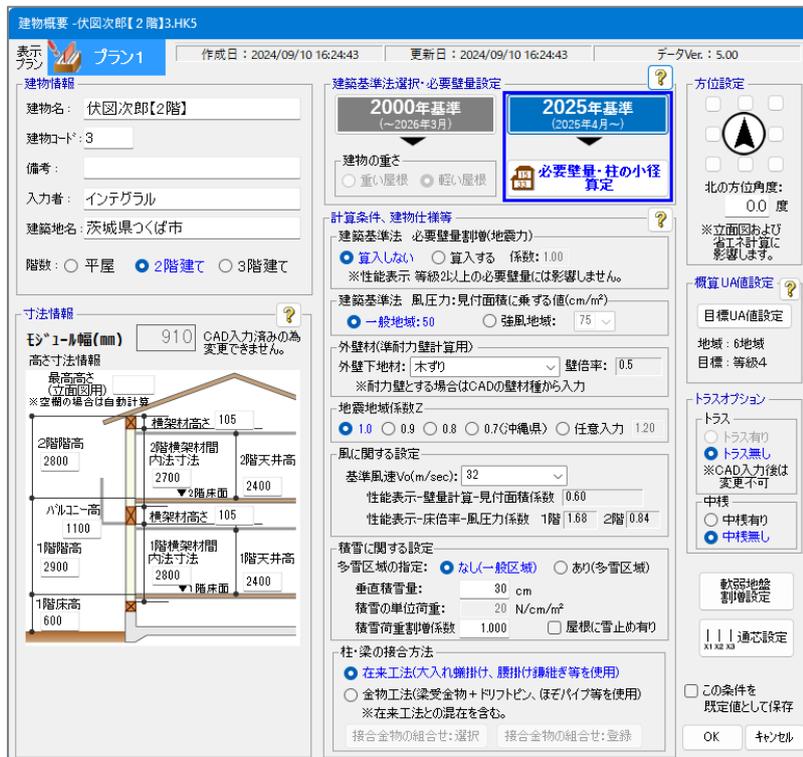


■新規に物件データを作成するには？
【新規作成】ボタンをクリックします。
※「1-2 建物概要」の画面が自動的に開きます。

■保存した物件データを読み込むには？
【開く】ボタンをクリックします。
※データフォルダ内のファイルが一覧表示されます。

■データを保存するには？
【保存】ボタンをクリックします。
※保存先確認画面が表示されます。

1-2 建物概要



■建物概要を設定

- 建物の概要情報を入力します。
- 「建物名」必須入力です。⇒保存されるファイル名になります。
- 「モジュール幅」は、CAD 入力が行われると変更できなくなりますので、ご注意ください。
- 計算で用いる建築基準法の基準を「2000年基準」または「2025年基準」から選択します。

1-3 [2025年基準]必要壁量・柱の小径設定

必要壁量・柱の小径算定

2025年基準 太線内の項目の入力・設定を行うことで、画面右の「階の床面積に乘ずる数値」「柱の小径」が計算されます。

※主要部の値を設定してください

軒の出(mm) ※屋根入力勾配とは連動しません
最高高さ(mm) 屋根勾配(寸)

軒高さ(mm)

2階階高(mm) 2階床面積(m²)
1階階高(mm) 1階床面積(m²)

GL

耐震等級のみで考慮 ※以下は建物概要で設定
地震地域係数Z

多雪区域指定
垂直積雪深(cm)
積雪単位荷重(N/cm²)

地盤(標準せん断力係数 C0)
 通常の地盤(0.2) 軟弱地盤(0.3)

建物用途(積載荷重:N/m²)
 住宅(600) 非住宅(800) 事務所等

太陽光発電設備等 なし
 あり(固定値: 260 N/m²)
 あり(任意入力:

屋根の仕様
名称:
固定荷重: 500 (N/m²)

外壁の仕様
名称:
固定荷重: 890 (N/m²)

断熱材 屋根・天井 固定値 (100 N/m²)
 任意入力

仕様①	面積(m ²)	密度(kg/m ³)	厚さ(mm)
仕様②			

断熱材 外壁 固定値 (70 N/m²)
 任意入力

仕様①	密度(kg/m ³)	厚さ(mm)
仕様②		

柱の小径 検討方法 座屈の算定式(樹種: すぎ 固定) 座屈の算定式(樹種: 任意選択) 柱の負担面積(樹種: 任意選択)

樹種

変更 ヘルプ

【算定結果】

▼階の床面積に乘ずる数値 (cm/m²)
【壁量計算】【壁の配置】用
(参考) (参考)

	2000年基準法<軽>	2000年基準法<重>	2025年基準法 耐震等級 2	2025年基準法 耐震等級 3
2階	15	21	27	32
1階	29	33	44	53
下屋	11	15	16	-

※下屋の値は壁の配置(四分割法、偏心率)で使用

▼柱の小径(mm以上)

樹種

()内は、柱の必要小径 / 横架材間内法距離

	2000年 建築基準法 <軽> 屋根	2000年 建築基準法 <重> 屋根	2025年 建築基準法
2階	82 (1/33)	90 (1/30)	76 (1/36)
1階	94 (1/30)	100 (1/28)	103 (1/27)

※「2025年建築基準法」の値は、「座屈の算定式(樹種: 任意選択)」で求めた値

グラフ ヘルプ

この条件を既定値として保存

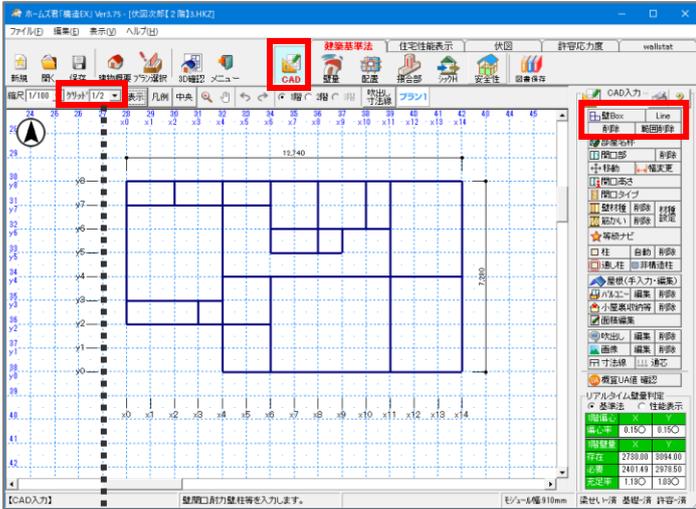
OK キャンセル

■必要壁量、柱の小径の計算に必要な条件を設定

軒の出、最高高さ、屋根勾配、軒高さなどの建物の寸法、屋根や外壁の仕様、柱の小径や樹種をそれぞれ設定します。

2. CAD入力

2-1 壁



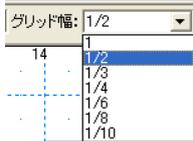
■入力方法

- 「壁 Box」は、2点入力です。
※対角にクリックすると「矩形」が描けます。
※水平（垂直）にクリックすると「直線」が描けます。
- 「Line」は、2点入力です。
※斜めの壁を描くことができます。
- 「削除」は、2点入力です。
- 「範囲削除」はBOXで囲んだ範囲の壁を全て削除します。

■ポイント

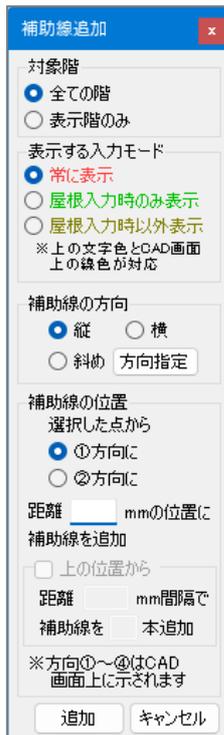
- 間取りを書くイメージで、部屋が壁で閉じられるように入力します。
- 開口がある部分も含めて、壁を入力します。
- 基礎の無い出窓は、省略してもかまいません。
- 壁は重ね書きをしても問題ありません。

■間崩れ壁の入力① グリッド分割の変更



- 1/2、1/3、1/4、1/6、1/8、1/10のいずれかを選択します。
※303mmの入力は「1/3」と設定すれば入力が可能です。
(910モジュールの場合)

■間崩れ壁の入力② 補助線の追加



- 「編集(E)」メニューの「補助線追加」を選択します。
- 追加する補助線の基準となる点をクリックします。
(補助線追加ウィンドウが表示されます)
- 追加する方向(縦、横、斜め)を選択します。
- 基準点からの距離(mm)を入力します。
- 「追加」ボタンをクリックします。
※画面上に補助線(赤点線)が追加されます。
※mm単位の壁の入力が可能になります。

次ページに続く

■間崩れ壁の入力③ モジュール幅部分変更



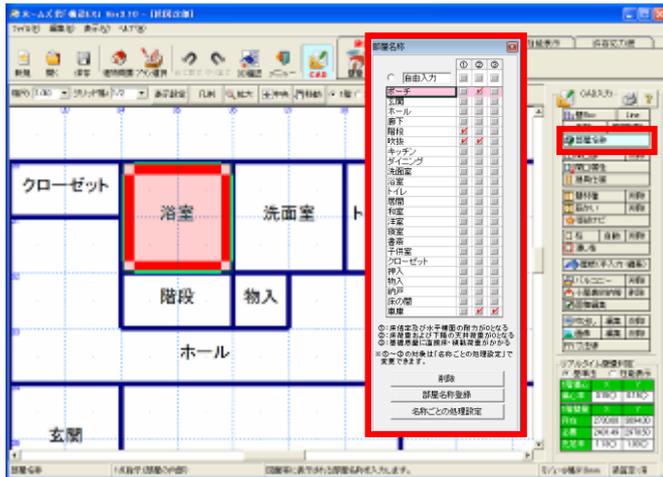
- 1) 「編集(E)」メニューの「モジュール幅部分変更」を選択します。
 - 2) 幅を変更したいモジュール線間をクリックします。
指定したモジュール線間が薄紫色で表示され、モジュール幅変更ウィンドウが表示されます。
 - 3) 幅を変更したい方向（横幅、縦幅）を選択します。
 - 4) モジュール幅(mm)を入力します。
 - 5) 「変更」ボタンをクリックします。
- ※モジュール幅が異なる部分はCAD入力画面上で赤文字で幅の長さが表示されます。
※モジュール幅は100～3000(mm)で設定できます。

■間崩れ壁の入力④ 補助点追加



- 1) 「編集(E)」メニューの「補助点追加」を選択します。
 - 2) 追加する補助点の基準となる点をクリックします。
(補助点追加ウィンドウが表示されます)
 - 3) 基準点からの距離(mm)を入力します。
 - 4) 「追加」ボタンをクリックします。
- ※画面上に補助点（赤点）が追加されます。
※追加した点間に壁や開口を入力することができ、柱を追加することもできます。

2-2 部屋名称



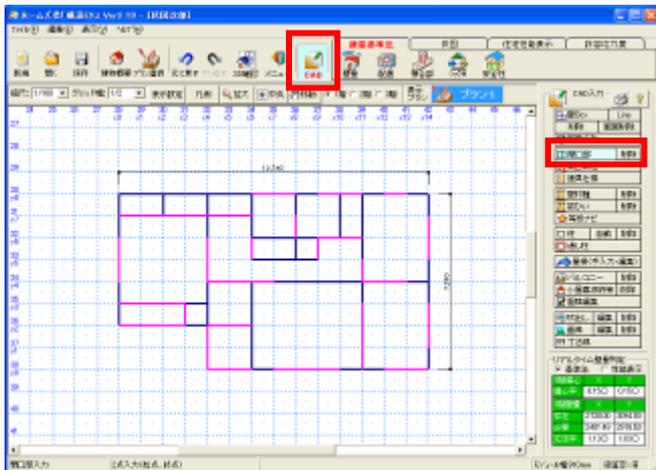
■入力方法

- 1点入力です。
- 「部屋名称」を一覧から選択し、対象となる部屋の内部をクリックします。

■ポイント

- 「ポーチ」と「吹抜」の面積は、
⇒住宅性能表示の壁量計算、床倍率の床面積に加算されます。
⇒建築基準法の床面積には加算されません。
- 「階段」と「吹抜」は「床倍率=0」として認識されます。

2-3 開口部



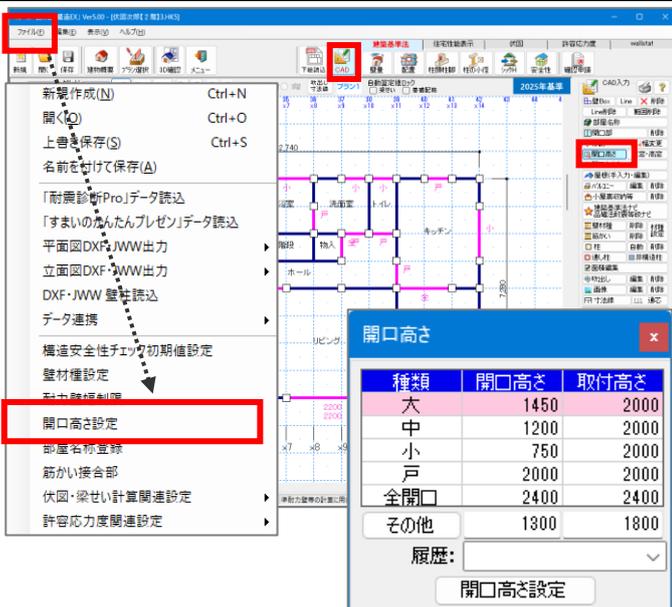
■入力方法

- 2点入力です。
- 開口の位置を、壁の上に重ねて入力します。
- ドアや窓を区別する必要はありません。

■ポイント

- 階段の入り口や玄関框なども開口部として入力します。
- ポーチの壁が無い面にも開口部を入力します。

2-4 開口高さ



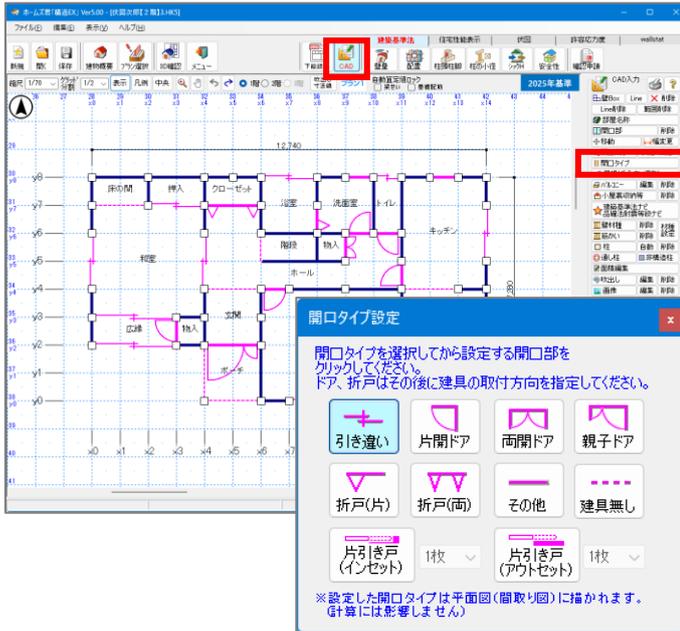
■入力方法

- 1点入力です。
- 種類（大/中/小/戸/全開口/その他）を選択し、対象となる開口部をクリックします。

■ポイント

- 初期値は「戸：1800/1800」です。
- 「開口高さ」と「取付高さ」は、任意に設定変更が可能です。
- 設定変更は、「ファイル(F)」メニューまたは「開口属性」ウィンドウの「開口属性設定」から行います。

2-5 開口タイプ



■入力方法

- 2点入力です。
 - 1点目・・・開口部を選択
 - 2点目・・・配置方向を指定
- 以下の種類の建具が入力できます。
 - 引き違い／片開ドア／両開ドア／親子ドア／折戸（片）／折戸（両）／その他／建具無し、片引き戸（インセット、アウトセット）

■ポイント

- 設定した建具は平面図（間取り図）に描かれます。

2-6 建築基準法ナビ・品確法耐震等級ナビ

※本機能は、3階建では利用できません

建築基準法ナビ・品確法耐震等級ナビ

①目標の耐震性能
 建築基準法適合 品確法耐震等級2 品確法耐震等級3
 ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

②壁配置のバランス評価方法
 偏心率 四分割法 両方
 目標偏心率 0.15以下 0.3以下(建告第1352号)

③面材耐力壁、準耐力壁、垂れ壁・腰壁の仕様
 外壁下地材(耐力壁)
 使用する 構造用合板(大壁)2.5倍
 垂れ壁・腰壁を算入する。壁倍率: 2.5
 ※無開口壁の外壁下地材は耐力壁として算入(準耐力壁としなない)
 内壁下地材(耐力壁)
 使用する 構造用合板(大壁)2.5倍
 準耐力壁、垂れ壁、腰壁として算入する。壁倍率: 2.5

④筋かいの仕様
 使用する 筋かい(45×90)
 シングル ダブル 壁倍率: 4.0

⑤柱の樹種、寸法
 樹種、種別、等級 変更 寸法
 すぎ 無等級製材 105×105 (mm)

⑥屋根、床の仕様 (品確法耐震等級の床倍率で考慮)
 床倍率設定

耐力壁 自動配置オプション
 ・入力済みの耐力壁 リセットする リセットしない
 ・浴室内部への面材追加 追加する 追加しない

キャンセル 耐力壁自動配置START ?

建築基準法および住宅性能表示において、目標とする耐震性能に適合するように耐力壁を自動配置します。

■操作方法

- ①「目標の耐震性能」の選択
 - ・適合させたい耐震性能を選択します。
- ②「壁配置バランス評価方法」の選択
 - ・壁の配置の評価方法を、偏心率、四分割法、両方から選択します。
- ③「耐力壁、準耐力壁、垂れ壁・腰壁仕様」選択
 - ・外壁および内壁の下地材を選択します。
- ④「筋かいの仕様」の選択
- ⑤「柱の樹種、寸法」の選択
 - ・「柱の小径」の判定で使用する樹種や寸法を選択します。
- ⑥「屋根、床の仕様」の選択
 - ・「床倍率」の判定で使用する屋根や床の仕様を選択します。

耐力壁 自動配置オプション

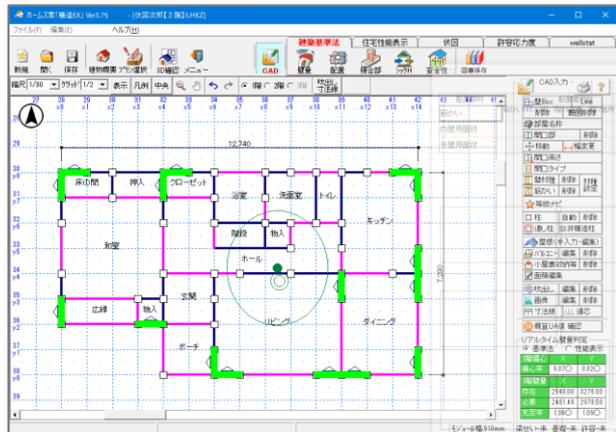
- 必要に応じて下記オプションを設定します。
- ・入力済みの耐力壁
「リセットする」、または「リセットしない」を選択します。
 - ・浴室内部への面材追加
「追加する」、または「追加しない」を選択します。

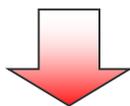
自動設計 START

- ・①～⑥の設定条件により自動配置を行います。
- ・画面上に耐力壁が一つずつ配置されます。

次ページに続く

▼自動配置実行





■結果

建築基準法ナビ・品確法耐震等級ナビ - 結果

耐力壁自動配置箇所 ※行をクリックでCAD画面上を強調表示

配置部材	配置箇所数
外壁下地材	
内壁下地材	
筋かい	筋かい(45×90): 1階26箇所、2階14箇所

■建築基準法 適合判定

基準法 壁量計算	壁の配置	柱頭柱脚 金物算定	柱の小径
○適合	○適合	○適合	○適合

構造3Dビューア

■品確法 等級判定

■壁配置バランス評価 ※建築基準法と共通

階	方向	四分割法		偏心率	
		配置前	配置後	配置前	配置後
2	X	×	○	-	0.05
	Y	×	○	-	0.26
1	X	×	○	-	0.03
	Y	×	○	-	0.02

■性能表示壁量計算

階	方向	耐震		耐風	
		配置前	配置後	配置前	配置後
2	X	不適	等級3	不適	等級2
	Y	不適	等級3	不適	等級2
1	X	不適	等級3	不適	等級2
	Y	不適	等級3	不適	等級2

■床倍率

階	方向	耐震		耐風	
		配置前	配置後	配置前	配置後
2	X	等級1	等級3	等級1	等級2
	Y	等級1	等級3	等級1	等級2
1	X	等級1	等級3	等級1	等級2
	Y	等級1	等級3	等級1	等級2

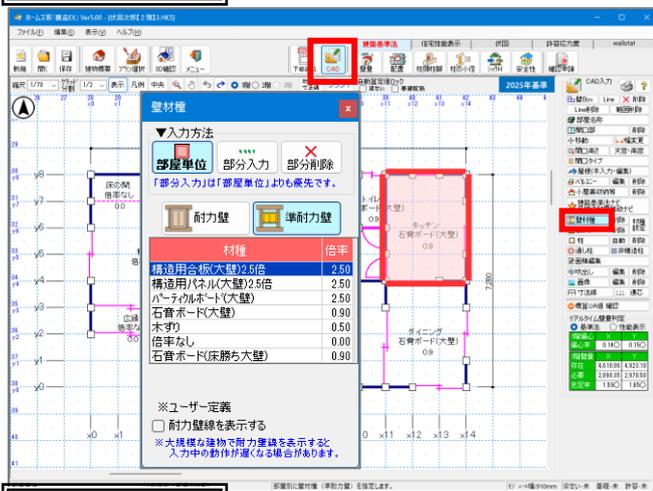
キャンセル 前の画面に戻る 自動配置結果を適用

■「結果」画面表示

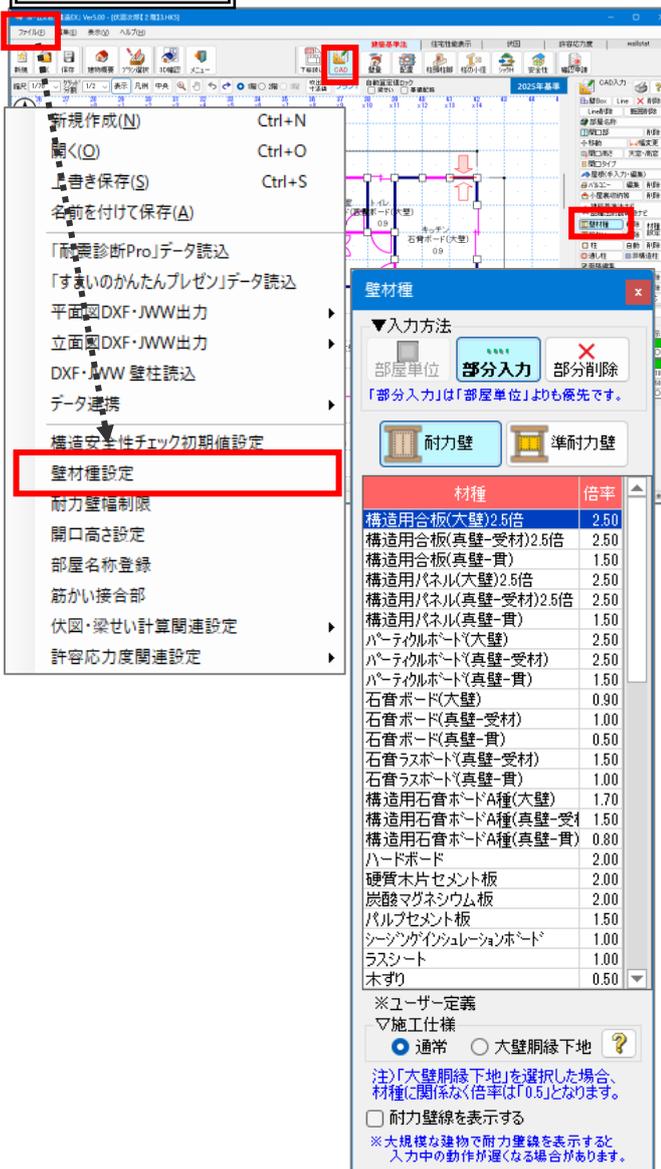
- 自動配置前後の建築基準法、等級を確認することができます。
※配置結果をCAD画面に適用することができます。
- 壁の配置（四分割法・偏心率）、壁量計算（耐震等級・耐風等級）、床倍率（耐震等級・耐風等級）が各階の方向ごとに表示されます。
- 配置部材の上をクリックすると、配置された箇所がCAD画面上で強調表示（緑色）されます。

2-7 壁材種

部屋単位入力



部分入力



壁の下地材を設定します。
 耐力壁と準耐力壁で入力方法が異なります。

■手順

- ①部屋毎の壁下地材（準耐力壁）を「部屋単位」で入力します。
- ②一部、仕様の違う壁（準耐力壁）があれば「部分入力」で入力します。
- ③耐力壁仕様の壁を「部分入力」で入力します。

▼入力方法

■部屋単位：部屋全面の壁下地材を一括設定します。

■部分入力：1、2点目で幅を、3点目で取り付く面を指定します。

※「部屋単位」と「部分入力」では、「部分入力」が優先されます。

※赤い矢印の面に壁材が設定されます。

▼材種選択

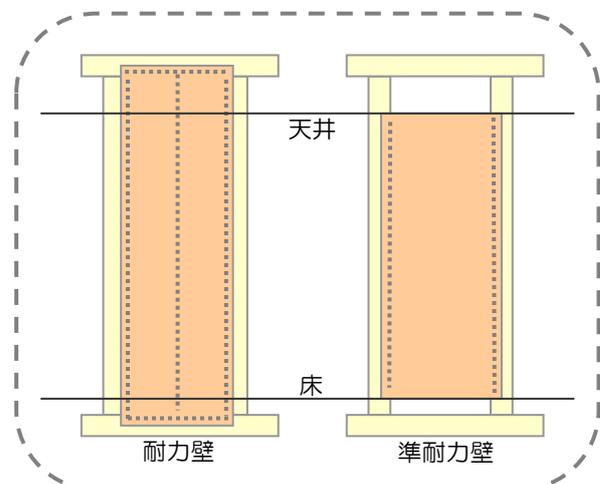
「耐力壁」：基準法における耐力壁仕様の壁

※横架材間に貼られている等

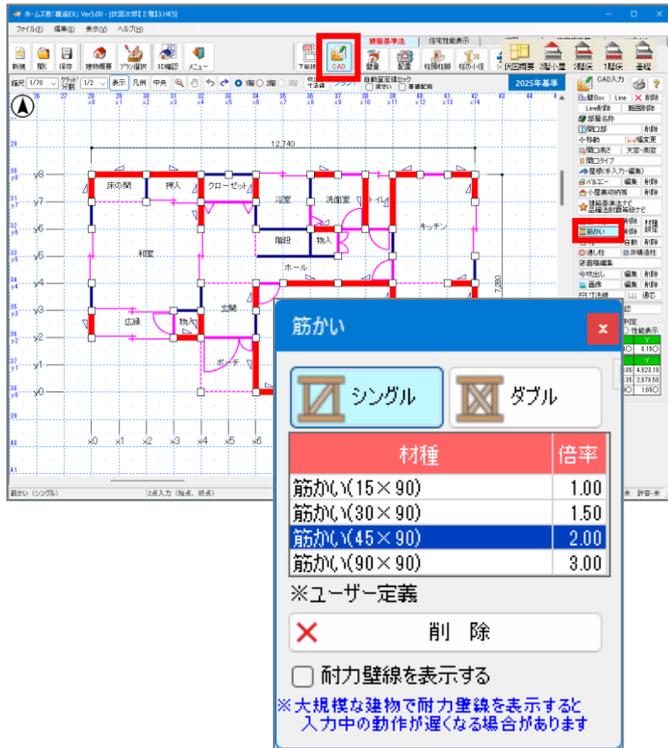
「準耐力壁」：耐力壁仕様に満たない施工、または材種

※床から天井まで施工の壁等

※「ファイル(F)」メニューの「壁材種設定」により、任意の壁材種を設定することが出来ます。

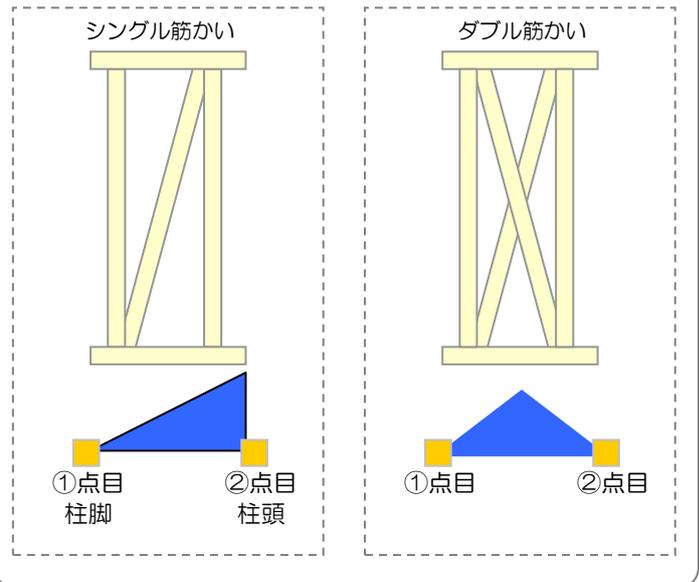


2-8 筋かい

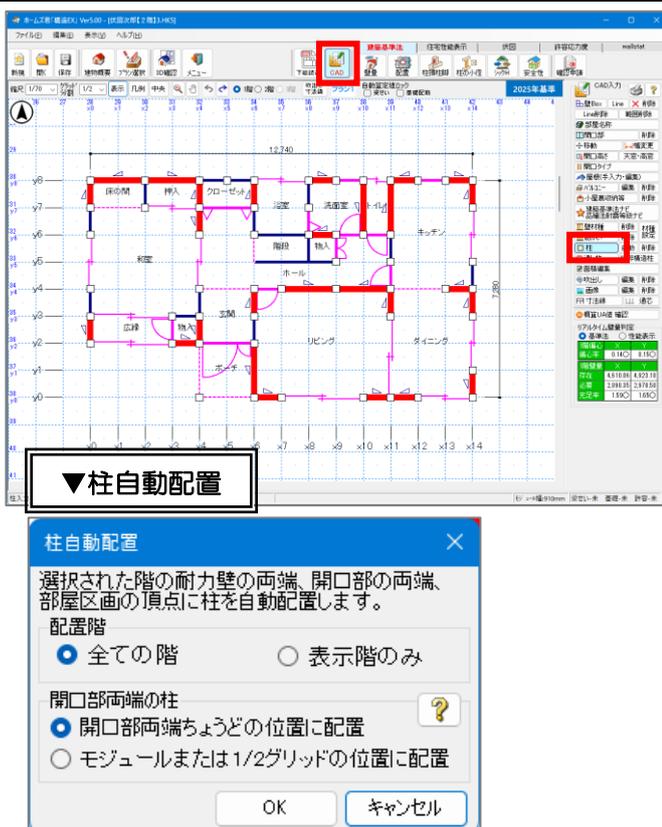


■入力方法

- 3点入力です。
- 「シングル」筋かきの入力
1点目=柱脚、2点目=柱頭
- 「ダブル (たすきがけ)」筋かきの入力
※入力順序と柱頭柱脚は関係ありません。
- 3点目で筋かき記号の表示位置を設定



2-9 柱



■入力方法

- 柱の位置を1点入力します。
- 入力した柱を再度クリックすることで削除できます。

▼柱自動配置

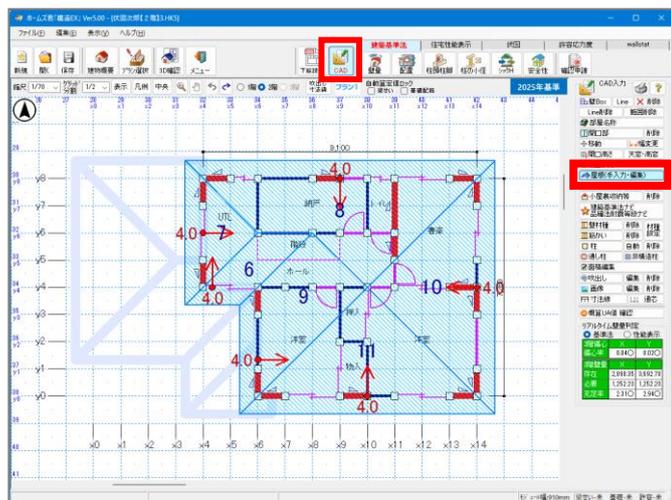
- 「自動」ボタンは、部屋区画の頂点、開口部の両端、耐力壁の両端に柱を自動配置します。
- 柱の自動配置対象は、全ての階、表示階のみいずれかが選択できます。

▼通し柱

- クリックした柱を通し柱とすることができます。
- 再度クリックすると通し柱設定は解除されます。

※通し柱を設定するには、1階2階の同位置に予め柱が入力されている必要があります。

2-10 屋根（手入力・編集）



■屋根自動生成

建物概要の屋根関連設定の設定値に応じて、屋根を自動生成します。

※屋根の手入力が行われていない場合、屋根は自動生成されます。

■面入力

▼下書きBOX、下書き線分
屋根下書き線を描きます。

▼削除、範囲削除
屋根下書き線を削除します。

▼屋根面確定
屋根下書き線で描かれた面を屋根として確定させます。

■登り方向

屋根に登り方向を設定します。

■勾配

▼勾配寸法
屋根勾配を設定します。

▼勾配単面
指定した屋根面に勾配を設定します。

▼勾配全面
作業中の階にあるすべての屋根面の勾配を設定します。

■高さ変更

増減高を指定して屋根の高さを変更します。

■軒出

▼増減幅
軒先から伸ばす軒出長さを設定します。

▼軒出調整
屋根の軒出の長さの増減を行います。

■軒天

軒天の形状を設定します。

■パラペット

上端高さ（立ち上がり高さ）を指定して屋根上にパラペットを入力します。

■削除

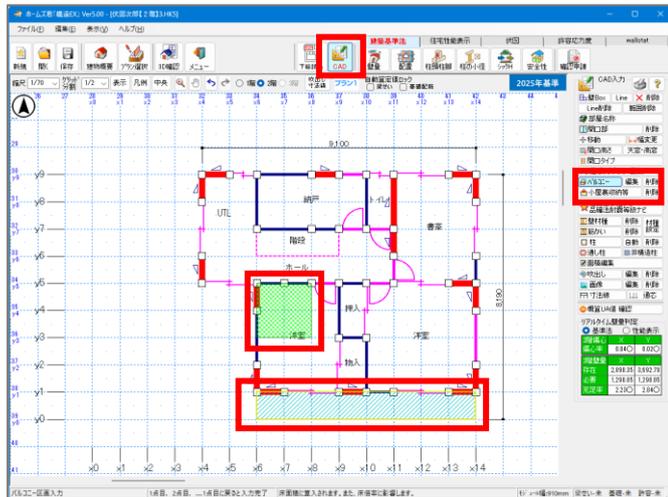
▼屋根 単面削除
指定した屋根面を削除します。

▼屋根 全面削除
作業階の全ての屋根面を削除します。

▼単面削除後、下書きに戻す
チェックしてから単面削除すると、指定した屋根面が下書き線に戻ります。

■操作方法のより詳細な解説については、
⇒操作マニュアル（基本編）をご参照下さい。
■屋根入力の実例については、
⇒操作マニュアル（屋根入力）をご参照下さい。

2-11 バルコニー、小屋裏収納



■入力方法

- マウスで多角形入力します。
- 一点目に戻ると入力終了します。

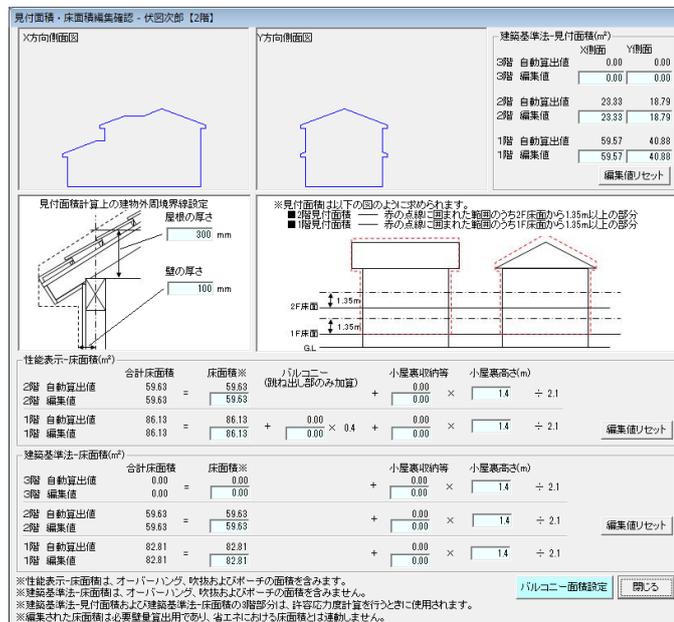
▼バルコニー

- 住宅性能表示用の床面積（1階）に加算します。

▼小屋裏収納

- 住宅性能表示用床面積、建築基準法用床面積に加算します。

2-12 面積編集



■ポイント

- 建築基準法用の床面積と、住宅性能表示用の床面積では範囲が異なります。

▼住宅性能表示用床面積

- オーバーハング、吹抜、ポーチの面積も加算されます。
- バルコニー、小屋裏収納も考慮します。

▼建築基準法用床面積

- オーバーハング、吹抜、ポーチの面積は含まれません。
- バルコニーは含まれません。
- 小屋裏収納は含みます。

- 面積編集を行った場合、下記の帳票は出力できませんのでご注意ください。

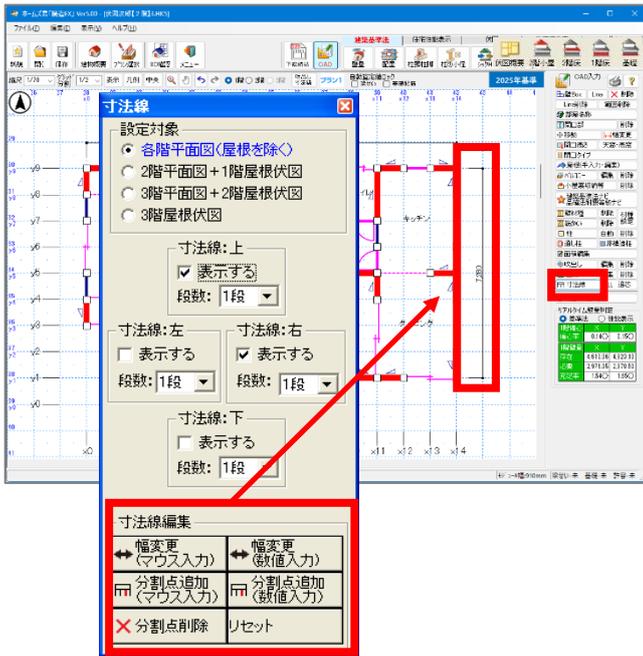
▼床面積を編集した場合、出力できません。

- 床面積根拠図
- 床面積計算表

▼見付面積を編集した場合、出力できません。

- 見付面積根拠図
- 見付面積計算表

2-13 寸法線



■ポイント

- CAD画面に表示される寸法線の編集を行うことができます。
- 最大で6段まで表示することができます。

■寸法線の編集方法（マウス入力する場合）

▼分割点の追加

分割点を追加する寸法線をクリックします。
※分割点ごとに寸法を表示します。

▼幅変更

- 1) 寸法線上の端点または分割点をクリックします。
- 2) 寸法線上の任意の位置でクリックします。

▼分割点削除

追加した分割点を削除します。

▼リセット

寸法線を初期状態に戻します。
寸法線ごとにリセットすることができます。

※数値入力については操作マニュアル（基本編）を参照してください。

2-14 平面図印刷

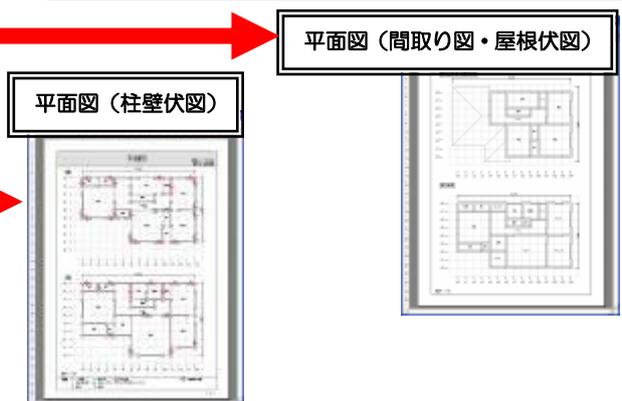


■使用方法

- CAD画面のプリンタボタンをクリックします。
- CAD画面の平面図を印刷できます。（「ファイル(F)」メニューの「印刷」から印刷することも可能です。）

■ポイント

- 表示項目は、「表示設定」ボタンのメニュー内で自由に切り替え可能です。
- 表示設定した内容が印刷に反映されます。



3. 建築基準法

3-1 [2025年基準]壁量計算

※3階建てでは、許容応力度オプションをご利用ください。

令46条「構造耐力上必要な軸組み等」の第4項および昭56年建告第1100号第三改正(令6年国交省告示第447号第1条)に基づく壁量計算を行います。

■必要壁量・柱の小径算定

壁量計算における「階の床面積に乗ずる係数」の算出に必要な条件を設定します。

■準耐力壁 全体設定

入力されている全ての準耐力、垂壁・腰壁に対して、壁倍率を考慮する/しないを設定できます。

■準耐力壁 個別設定

壁ごとに、準耐力壁、垂壁・腰壁の壁倍率を考慮する/しないを設定できます。

■壁高・横架材間高変更

準耐力壁の壁倍率算出に使用する高さの確認、設定を行うことができます。

■判定

「壁量計算の判定根拠」および「耐力壁の存在壁量に対する割合」を表示します。

▼「コメント」

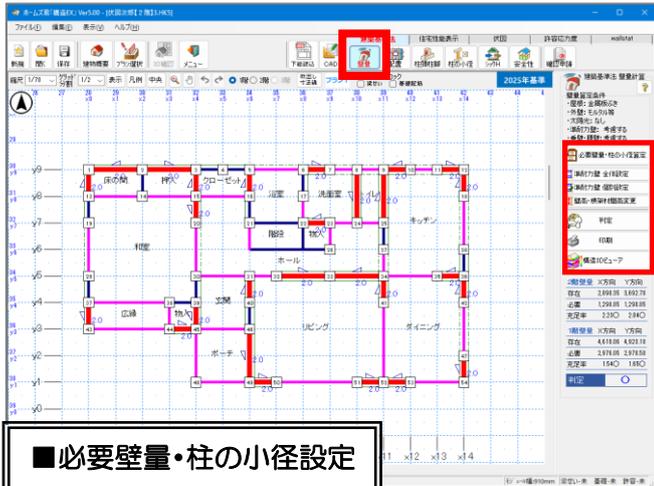
判定結果にコメントをつけることができます。任意に文字を入力することができます。
※「ユーザーコメント」は、「壁量計算表」に印刷されます。

■印刷

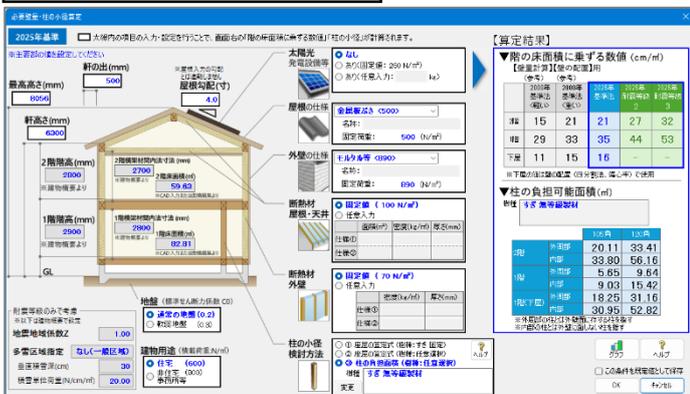
全ての帳票を「プレビュー」、「印刷」または「PDF出力」することができます。

■構造3Dビューア

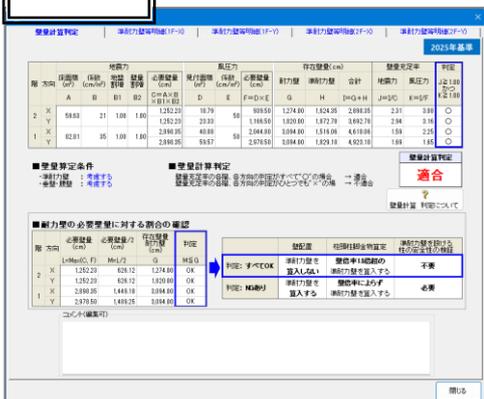
壁量計算の判定結果を構造3Dビューアで確認することができます。



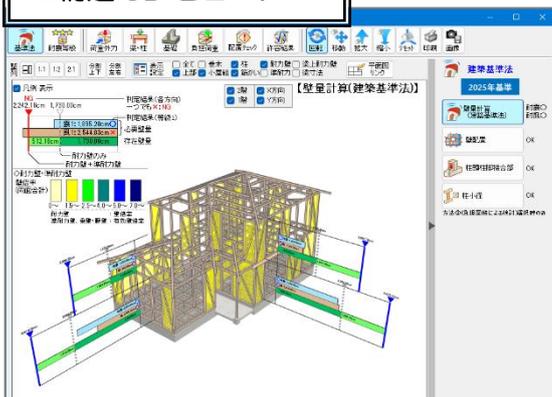
■必要壁量・柱の小径設定



■判定

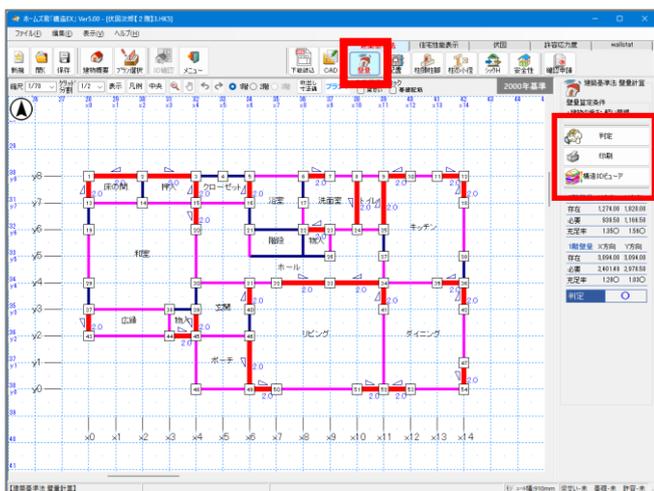


■構造3Dビューア



3-2 [2000年基準]壁量計算

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。



令 46 条「構造耐力上必要な軸組み等」の第 4 項に基づく壁量計算を行います。

■判定

階	方向	地震力		必要壁量 (cm)	風圧力			存在壁量 (cm)	壁量充足率		判定	
		床面積 (m ²)	係数		見付面積 (m ²)	係数	必要壁量 (cm)		地震力	風圧力		
2	X	59.62	15	894.30	18.79	50	939.50	1274.00	地震力	1.42	1.35	○
	風圧力								2.03	1.56	○	
1	X	82.81	29	2401.49	40.88	50	2044.00	2730.00	地震力	1.13	1.33	○
	風圧力								1.28	1.03	○	

■判定

- 壁量計算の判定根拠が表示されます。
- 耐力壁の倍率のみ考慮します。

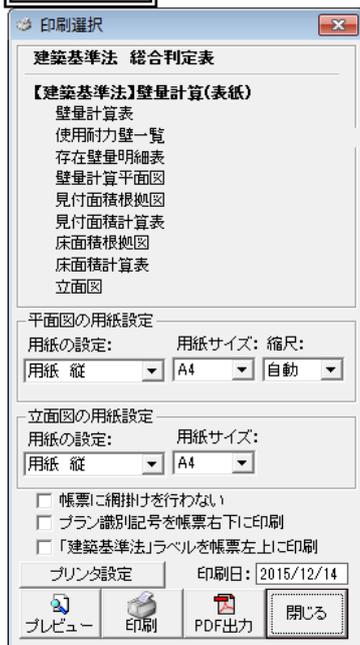
▼「ユーザーコメント」

- 診断結果にコメントをつけることができます。任意に文字を入力することができます。
- ※「ユーザーコメント」は、「壁量計算表」に印刷されます。

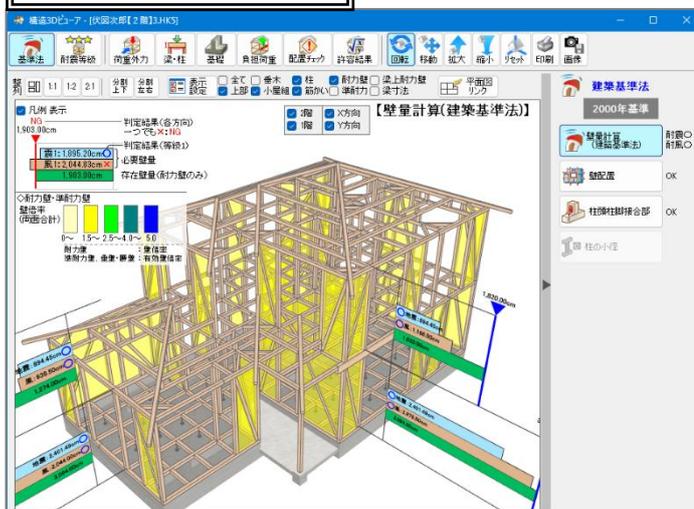
■印刷

- 全ての帳票を「プレビュー」、「印刷」または「PDF 出力」することができます。
- ▼「帳票に網掛けを行わない」
帳票の網掛け部分を網掛けせずに出力します。
- ▼「プリンタ選択」
プリンタの設定（カラー／モノクロの設定等）を変更します。
- ▼「印刷日」
計算書に出力される日付を設定します。

■印刷



■構造 3D ビューア



■構造 3D ビューア

- 壁量計算の判定結果を構造 3D ビューアで確認することができます。

3-3 壁の配置 (四分割法/偏心率)

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

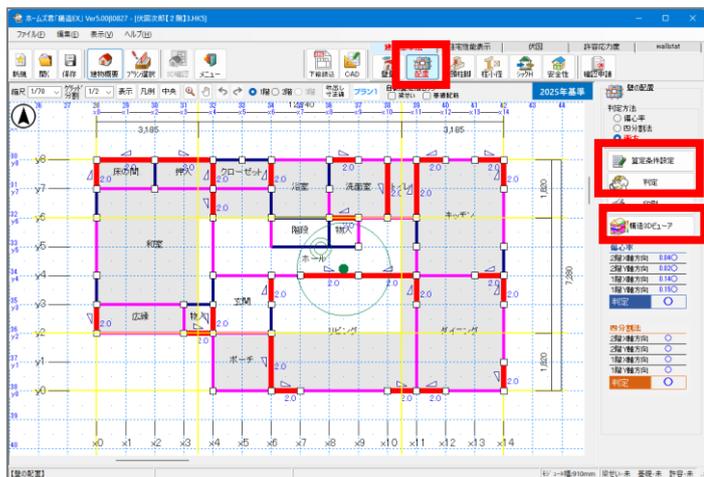
四分割用および偏心率により、壁の配置バランスの判定を行います。
2025年基準と2000年基準では、以下の違いがあります。

▼2025年基準

- ・昭56年建告第1100号第四改正（令6年国交省告示第447号第1条）に基づき判定。
- ・必要壁量に対する耐力壁の存在壁量の割合(1/2未満の場合)により、四分割法の判定で準耐力壁の壁倍率を算入。

▼2000年基準

- ・令46条、平12建告第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき判定。
- ・準耐力壁の壁倍率は算入しない。



■判定

- ・偏心率および四分割法、それぞれの判定結果を確認できます。

■構造3Dビューア

- ・壁の配置の判定結果を構造3Dビューアで確認することができます。

■偏心率

壁の配置判定表		偏心率		四分割法		2025年基準	
要素名	層	方向	判定指標(0以上は合格)	計算式	計算値	判定	判定
床面積 (㎡)	1	-	階床面積(0以上は合格)	階床面積(㎡)	52.63	合格	合格
重心座標	1	X座標	2(分けた三角形の重心座標×面積)÷階床面積	$2 \times \text{面積} \times \text{重心座標} \div \text{階床面積}$	8.59	合格	合格
		Y座標	2(分けた三角形の重心座標×面積)÷階床面積	8.84	合格	合格	
有効耐力壁量 (m)	1	X方向	1(1/2×階三角形重心座標×階高)÷27×階三角形重心座標×階高	$1 \times \text{階高} \times \text{階三角形重心座標} \div 27 \times \text{階三角形重心座標} \times \text{階高}$	7.73	合格	合格
		Y方向	1(1/2×階三角形重心座標×階高)÷27×階三角形重心座標×階高	8.85	合格	合格	
耐力壁率	1	X方向	2(壁倍率×階方向壁長)	$2 \times \text{壁倍率} \times \text{階方向壁長}$	12.74	合格	合格
		Y方向	2(壁倍率×階方向壁長)	30.84	合格	合格	
偏心率	1	X方向	2(壁倍率×階方向壁長×壁の位置)	$2 \times \text{壁倍率} \times \text{階方向壁長} \times \text{壁の位置}$	48.37	合格	合格
		Y方向	2(壁倍率×階方向壁長×壁の位置)	157.34	合格	合格	
偏心率	1	X座標	階重心座標(階方向)÷有効耐力壁量(階方向)	$\text{階重心座標} \div \text{有効耐力壁量}$	139.12	合格	合格
		Y座標	階重心座標(階方向)÷有効耐力壁量(階方向)	216.86	合格	合格	
偏心率	1	X座標	階重心座標(階方向)÷有効耐力壁量(階方向)	7.81	合格	合格	
		Y座標	階重心座標(階方向)÷有効耐力壁量(階方向)	4.50	合格	合格	

判定内容
・重心座標(階高)は、階高を27階の形を考慮して算出。
・階重心のY座標は、階高を27階の形を考慮して算出。
・偏心率判定は、各層各方向全てで偏心率が3以上は合格。

偏心率判定: **適合**

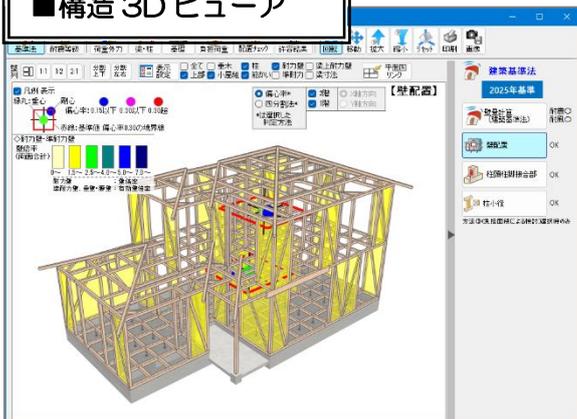
■四分割法

壁の配置判定表		偏心率		四分割法		2025年基準			
層	方向	位置	有効耐力壁量 (㎡)	階床面積 (㎡)	必要壁量 (㎡)	存在壁量 (㎡)	壁量充足率	判定	
2	X	上	16.57	21	1.0	347.97	549.00	1.56	○
		下	19.25	21	1.0	279.25	549.00	1.96	○
	Y	左	9.84	21	1.0	289.74	729.00	3.49	○
		右	16.57	21	1.0	347.97	549.00	1.56	○
1	X	上	23.19	85	1.0	811.65	1,455.00	1.79	○
		下	16.57	85	1.0	579.95	729.00	1.25	○
	Y	左	17.40	36.16	1.0	279.40	384.00	1.39	○
		右	23.19	85	1.0	811.65	1,092.00	1.34	○

判定内容
①有効耐力壁: 建築物の構造、実行を長さ1/4分割した部分の面積
階高が1/4コートは、該部分面積の4倍の有効耐力壁に換算。
階高部分面積に分割されている場合はマークで表示。
階高部分面積に分割されている場合はマークで表示。
②偏心率: 階高を27階の形を考慮して算出。
③必要壁量: 階高を27階の形を考慮して算出。
④存在壁量: 階高を27階の形を考慮して算出。
⑤充足率判定: 充足率が1.0以上は、壁量充足率判定は合格。
⑥四分割法判定: 各層各方向全てで壁量充足率が1.0以上は合格。
または壁量充足率が1.0以上は合格。

四分割法判定: **適合**

■構造3Dビューア



3-4 接合部 (N値計算)

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

※このページは在来工法の接合部についての解説です。

金物工法の接合部については「操作マニュアル (基本編)」をご参照ください。

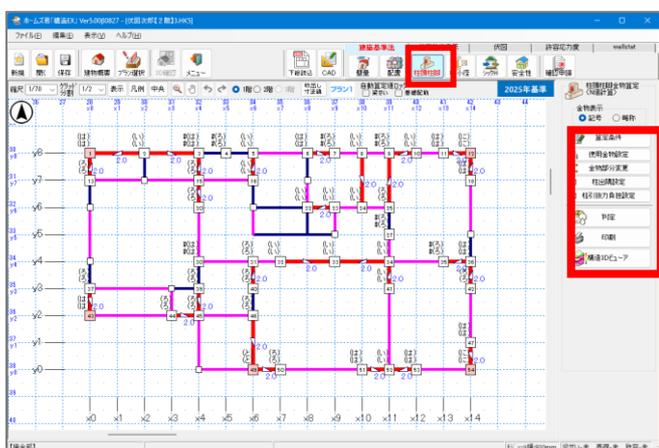
N値計算により、柱頭柱脚接合部の金物算定を行います。
2025年基準と2000年基準では、以下の違いがあります。

▼2025年基準

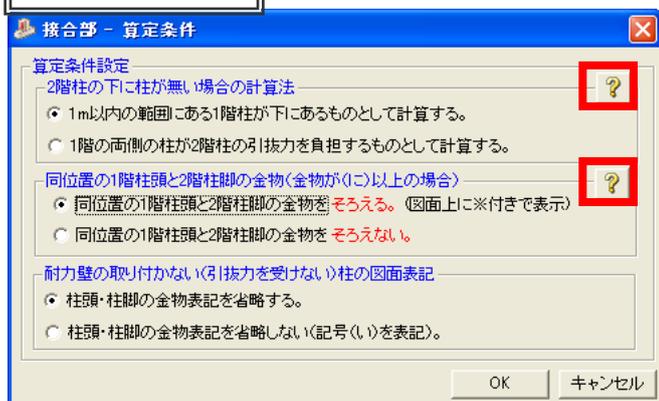
- 令47条、平12年建告第1460号第2号 改正 (令6年国土交通省告示第447号第4条) に基づき算定。
- 必要壁量に対する耐力壁の存在壁量の割合(1/2未満の場合)により、準耐力壁の壁倍率を算入。また、準耐力壁の壁倍率が1.5倍超になる場合も算入。

▼2000年基準

- 令47条、建告第1460号第2号に基づき算定。
- 準耐力壁の壁倍率は算入しない。



■算定条件設定



■使用金物設定

N値	表示形式	金物名	略称	注意事項(認定番号)	使用する
0	(い)	短しそ差し又はわすか、打ち、又はこれらと同	加工		<input checked="" type="checkbox"/>
0.65	(ろ)	長しそ差し込み柱又はかど金物CP-L、又はイ	CP-L		<input checked="" type="checkbox"/>
1	(お)	山形プレートVP又はかど金物CP-T、又はこれら	VP		<input checked="" type="checkbox"/>
1.4	(こ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘なし)	SB-F2		<input checked="" type="checkbox"/>
1.6	(け)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘あり)	SB-F		<input checked="" type="checkbox"/>
1.8	(へ)	10kN級 引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の級	HD-B10		<input checked="" type="checkbox"/>
2.8	(と)	15kN級 引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の級	HD-B15		<input checked="" type="checkbox"/>
3.7	(ち)	20kN級 引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の級	HD-B20		<input checked="" type="checkbox"/>
4.7	(り)	25kN級 引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の級	HD-B25		<input checked="" type="checkbox"/>
5.6	(ぬ)	15kN級 引き寄せ金物×2、又はこれらと同等以上の級	HD-B15×2		<input checked="" type="checkbox"/>
5.6級	(へ)		N5.6		<input checked="" type="checkbox"/>

■金物表示

- CAD画面上と計算書内の金物表記方法を切り替えます。
「記号」: (い)(ろ)(は)の記号で表記
「略称」: CP-L、HD-B15等

■算定条件設定

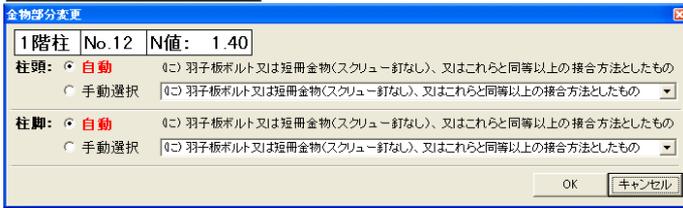
設定内容については、[?]ボタンのヘルプ、または「②操作マニュアル (基本編)」をご参照下さい。

■使用金物設定

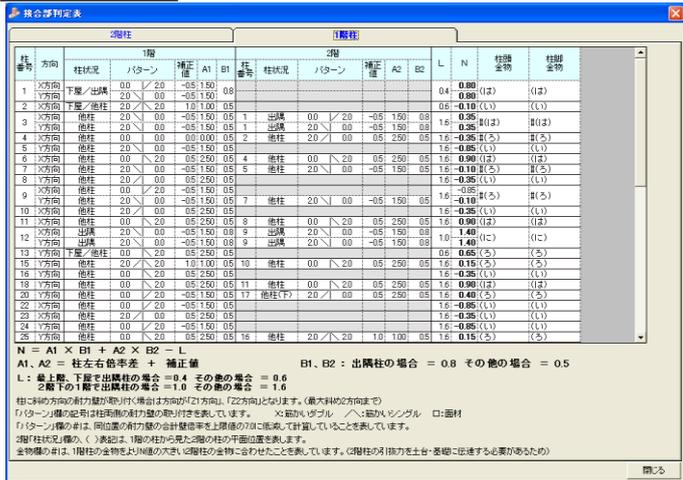
- N値に応じた使用金物が任意設定可能です。
- 「金物登録」によりそれぞれの金物記号に対して使用する金物を登録します。
登録した金物を「使用金物設定」画面で選択します。
- 「使用する」のチェックをOFFにすると該当金物は使用されず、次にN値の大きい金物を割り当てます。
- 設定した内容を既定値とする場合は、「現在の設定を既定値とする」にチェックを付けます。

次ページへ続く

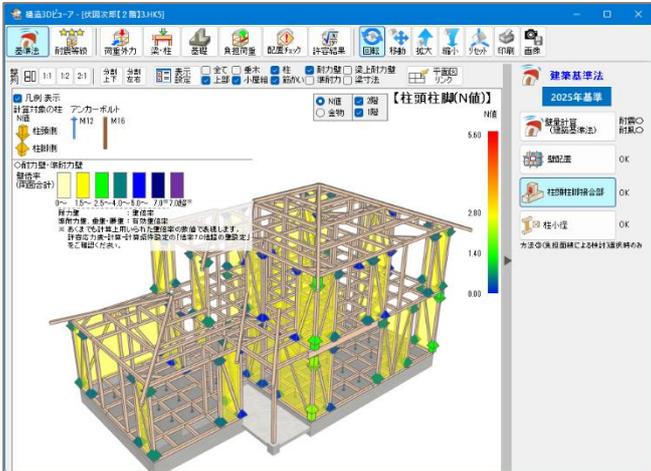
■金物部分変更



■判定



■構造 3D ビューア



■金物部分変更

- 柱ごとに柱頭、柱脚接合部仕様を変更することができます。
- 変更を行った金物は略称表示の場合、CAD画面上では赤文字で表示され、判定画面や計算書では略称の前に「*」付きで表示されます。

■柱出隅設定

- 出隅柱とする柱をクリックします。
※出隅柱は、通常は建物の形状に応じて自動的に設定されます。
自動設定の結果が実情に合わない場合は必要に応じて本機能で設定してください。

■通し柱属性

- 通し柱の場合は、1階柱頭と2階柱脚の金物は「金物無し」となります。
- 通し柱はCAD入力で設定します。

■判定

- 「2階柱」「1階柱」の2つに分類して計算結果を表示します。

■構造 3D ビューア

- N値計算の算定結果を構造 3D ビューアで確認することができます。

3-5 [2025年基準]柱の小径

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

建築基準法施行令第43条、平12年建告第1349号第一改正(令6年国交省告示第447号第3条)に対応した柱の小径のチェックを行います。

■必要壁量・柱の小径設定

・「柱の小径」の算出に必要な条件を設定します。

■検討方法

・検討方法を以下の①～③から選択します。

- ①座屈の検定式(樹種:すぎ固定)
- ②座屈の検定式(樹種:任意選択)
- ③柱の負担面積

■柱全体設定(樹種、寸法)

・柱の断面寸法、樹種を一括設定します。

■柱個別設定(樹種、寸法、座屈長さ)

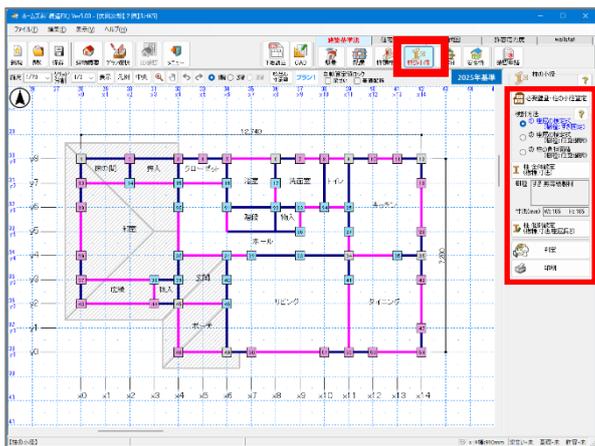
・柱1本ごとに断面寸法、樹種、座屈長さを設定します。

■判定

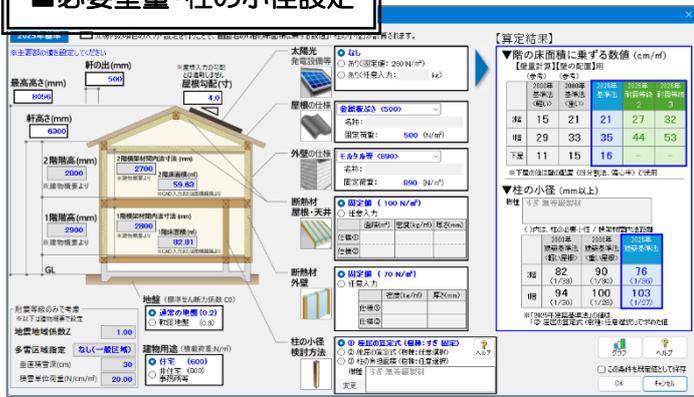
・柱の小径の判定結果を表示します。

■構造3Dビューア

・検討方法が「③柱の負担面積」の場合、判定結果を構造3Dビューアで確認することができます。



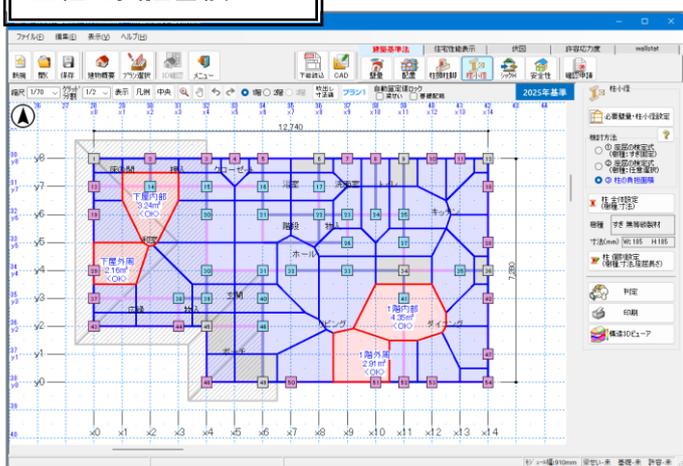
■必要壁量・柱の小径設定



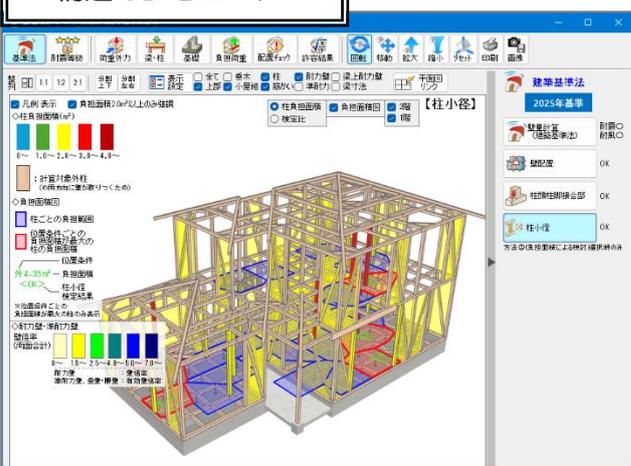
■判定



■柱の負担面積

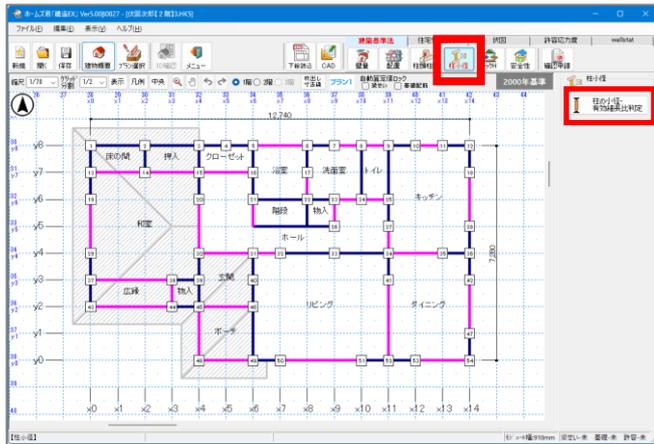


■構造3Dビューア



3-6 [2000年基準]柱の小径

※3階建てでは、許容応力度オプションをご利用ください。



令第43条「柱の小径」に対応したチェックを行います。

■柱の小径・有効細長比判定

- 柱の小径、および建築物の重さを選択し、「判定」ボタンで結果を表示します。

■柱の小径・有効細長比

柱の小径・有効細長比

柱の小径 mm

建築物

軽い屋根

重い屋根

重い外壁

横架材間内寸法

2階 mm

1階 mm

※建物概要で設定

印刷時刻を表示しない

キャンセル

柱の小径・有効細長比

日付: 2024年05月27日 22:04:02
建号: 000003
棟号: 000003

■建物概要

建築物の階数	2階建
建築物の種類	住宅

■柱情報

小径 b	105mm
横架材間内寸法 Lk	2階: 2700mm
	1階: 2800mm
断面積 S	11.025mm ²
断面二次モーメント I	10,128.98mm ⁴
断面の慣性二次率半径 r	99.31mm

■判定結果

▼柱の小径 (建築基準法施行令第43条第1項)

階	小径 b	横架材間内寸法 Lk	計算値 A = b / Lk	柱の小径と横架材間内寸法の比率	判定
2階	105mm	2700mm	0.039 (1/25.7)	0.039 (1/25)	適合
1階	105mm	2800mm	0.038 (1/26.7)	0.038 (1/26)	適合

0の値は、柱の小径と横架材間内寸法の比を分數で表したものです。

▼柱の有効細長比 (建築基準法施行令第43条第2項)

階	断面積 S	断面の最小二次率半径 r	計算値 C = S / Lk ²	柱の有効細長比	判定
2階	11.025mm ²	99.31mm	89.08	190	適合
1階	11.025mm ²	99.31mm	82.38	190	適合

■総合判定

総合判定

「柱の小径」と柱の有効細長比の各階の判定結果が全て「適合」の場合 → 適合
「柱の小径」と柱の有効細長比の各階の判定結果がひとつも「不適合」の場合 → 不適合

※1 建築基準法施行令第43条第1項で、小径と横架材間内寸法の比は以下の表のように定められています。

建築物	柱	最上階又は階数が1の建築物の柱	その他の階の柱
(一) 本条第5項第2号の意にこれに属する層の重量が特に大きい建築物		1/25	1/22
(二) (一)に属する建築物以外の建築物で壁柱を主要柱、柱梁そのものに属する軽い桁があるもの		1/33	1/30
(三) (一)及び(二)に属する建築物以外の建築物		1/30	1/28

※2 本システムでは、上記第5項第2号の意に属する層の重量が特に大きい建築物 ⇒ 「重い屋根」とします。
(一) 本条第5項第2号の意にこれに属する層の重量が特に大きい建築物 ⇒ 「重い屋根」とします。
(二) (一)に属する建築物以外の建築物で壁柱を主要柱、柱梁、木根その他 ⇒ 「軽い屋根」とします。
(三) (一)及び(二)に属する建築物以外の建築物 ⇒ 「軽い屋根」とします。

※3 本システムでは柱の有効細長比をピン接合としています。よって断面積 S = 横架材間内寸法として計算します。

<プラン1>

3-7 確認申請

■ 確認申請

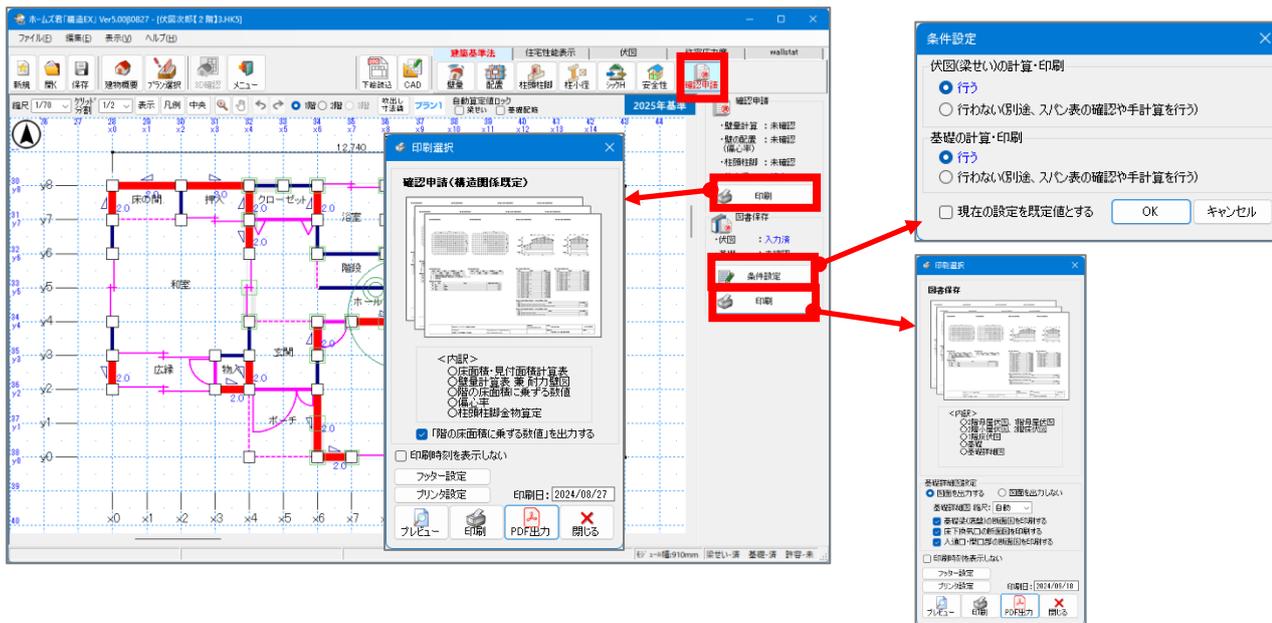
建築基準法の確認申請に必要な下記の帳票をまとめて出力します。

- ・ 壁量計算 ・ 壁の配置計算（四分割法、偏心率） ・ 階の床面積に乗ずる数値（2025年基準のみ）
- ・ 柱頭柱脚金物算定（N値計算）

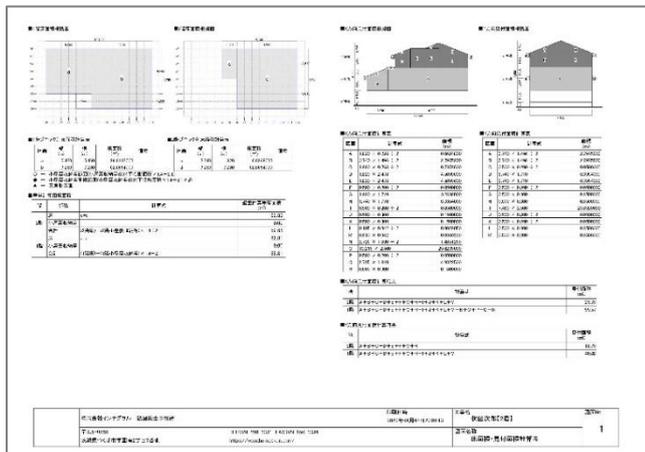
■ 図書保存

2020年3月施行の改正建築士法にて義務付けられた設計図書の保存に基づき、保存対象と定められている設計図書のうち、下記の帳票をまとめて出力します。

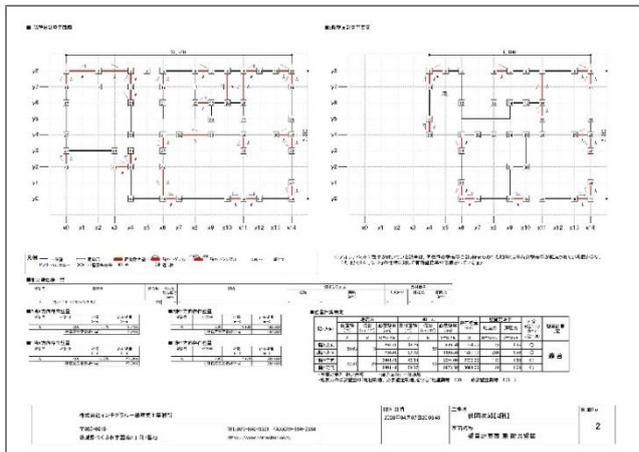
- ・ 各階床伏図 ・ 小屋伏図 ・ 基礎伏図 ・ 基礎詳細図



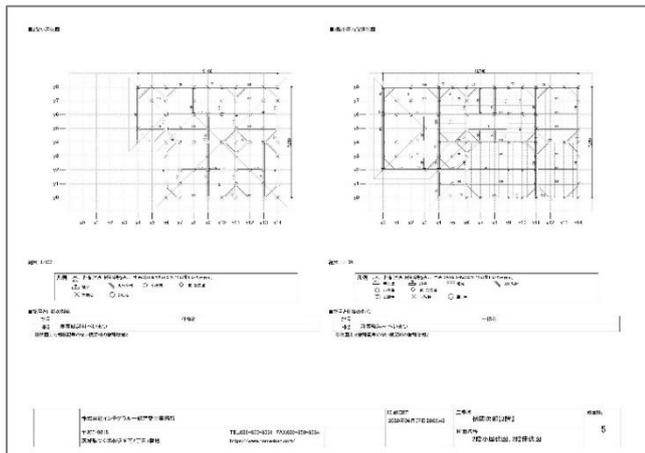
▼ 床面積・見付面積計算表



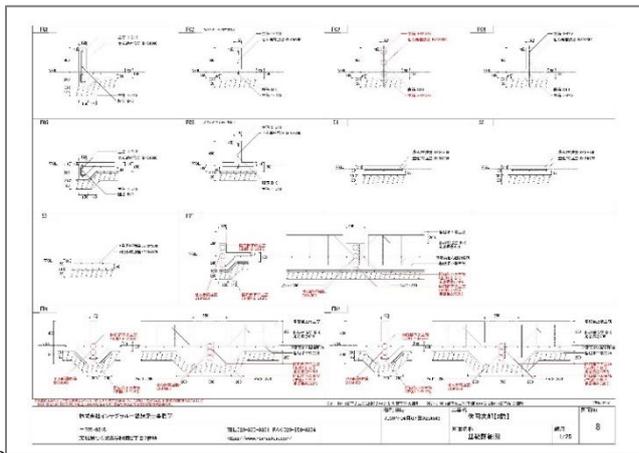
▼ 壁量計算表兼耐力壁図



▼ 2階小屋伏図、2階床伏図

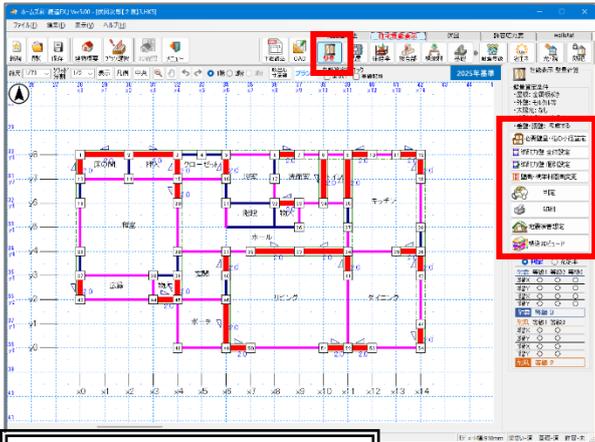


▼ 基礎詳細図



4. 住宅性能表示制度

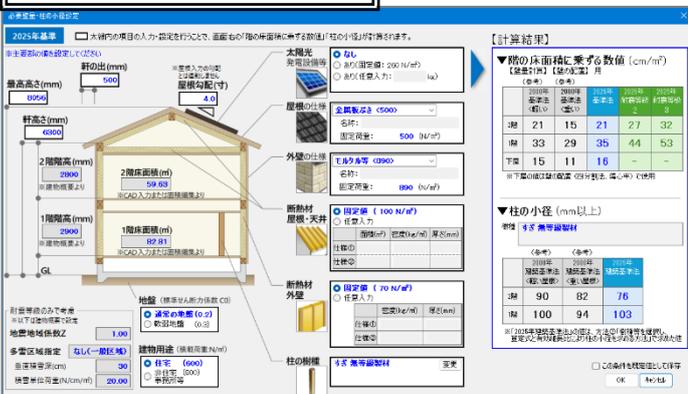
4-1 [2025年基準]壁量計算 (住宅性能表示)



※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

平 13 年国交省告示第 1347 号第 5 1-1(3)ホ
① 改正(令 6 年国交省告示第 1000 号)に
基づく壁量計算を行います。

■必要壁量・柱の小径設定



■必要壁量・柱の小径設定

・壁量計算における「階の床面積に乗ずる係数」の算出に必要な条件を設定します。

■準耐力壁 全体設定

・入力されている全ての準耐力、垂壁・腰壁に対して、壁倍率を考慮する/しないを設定できます。

■準耐力壁 個別設定

・壁ごとに、準耐力壁、垂壁・腰壁の壁倍率を考慮する/しないを設定できます。

■壁高・横架材間高変更

・準耐力壁の壁倍率算出に使用する高さの確認、設定を行うことができます。

■判定

・「壁量計算の判定根拠」および「耐力壁の存在壁量に対する割合」を表示します。

■判定



▼「コメント」

・判定結果にコメントをつけることができます。任意に文字を入力することができます。
※「ユーザーコメント」は、「壁量計算表」に印刷されます。

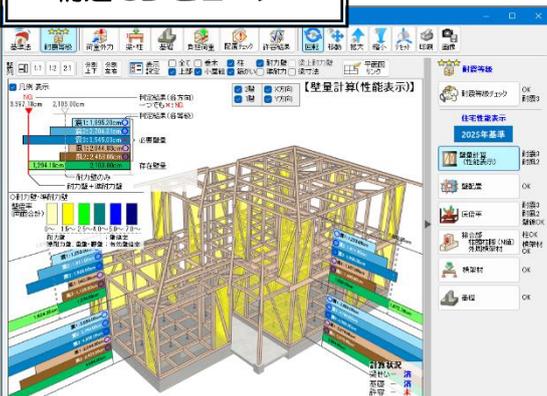
■印刷

・全ての帳票を「プレビュー」、「印刷」または「PDF出力」することができます。

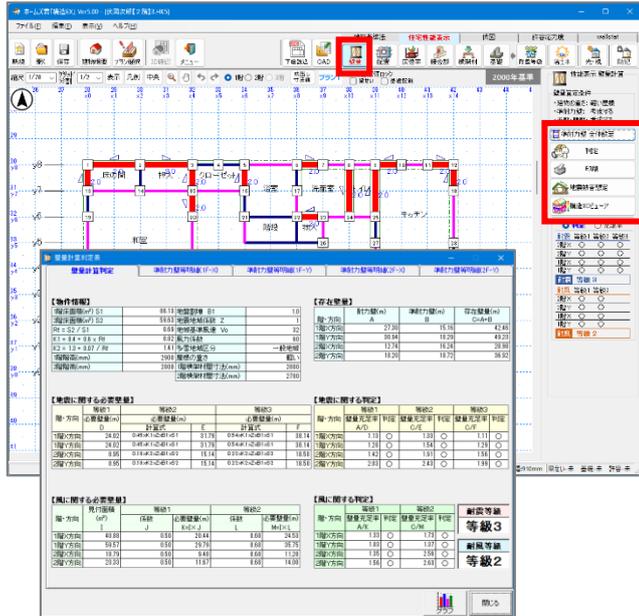
■構造 3D ビューア

・壁量計算の判定結果を構造 3D ビューアで確認することができます。

■構造 3D ビューア



4-2 [2000年基準]壁量計算 (住宅性能表示)

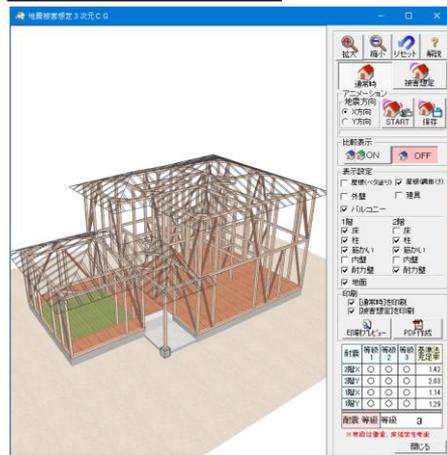


※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

住宅性能表示制度の「構造の安定」に関する壁量計算を行います。
※2000年基準の建築基準法における壁量計算とは異なり、準耐力壁の壁倍率も考慮します。

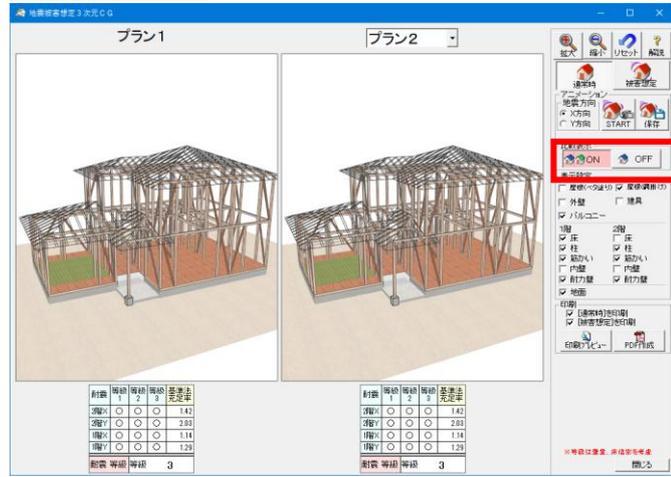
- 準耐力壁全体設定
 - 準耐力、垂壁・腰壁を考慮するかどうかの設定を行います。
- 判定
 - 壁量計算結果をグラフなどで表示します。
- 印刷
 - 壁量計算書を印刷します。

■地震被害想定



- 地震被害想定
 - CAD入力した建物を3D表示します。
- ▼通常時、被害想定
 - 性能表示が想定する地震（極めて稀に起きる大地震）が発生した際に想定される被害状況を3Dイメージで表します。
- ▼振動アニメーション
 - 地震時の様子をアニメーションでリアルに表現します。
 - 方向別に振動を与えられるので、どちらの方向の揺れに対して弱いのがわかります。

▼比較表示



- ▼比較表示
 - 2つのプランを同時に表示します。
 - 各プランの耐震性を比較しながら、被害想定や振動アニメーションを確認することが可能です。
 - 比較するプランを切り替えることができます。
- ▼表示設定
 - 壁やバルコニー等表示させたい部位を選択することができます。
- ▼印刷
 - 「通常時」と「被害想定」の画像を印刷することができます。
 - 比較表示の印刷も可能です。
- ▼その他
 - 画面上をマウスでクリックしながら、建物を回転、移動させることができます。

4-3 壁の配置（四分分割法/偏心率）

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

■「3-3 壁の配置（四分分割法/偏心率）」を参照してください。

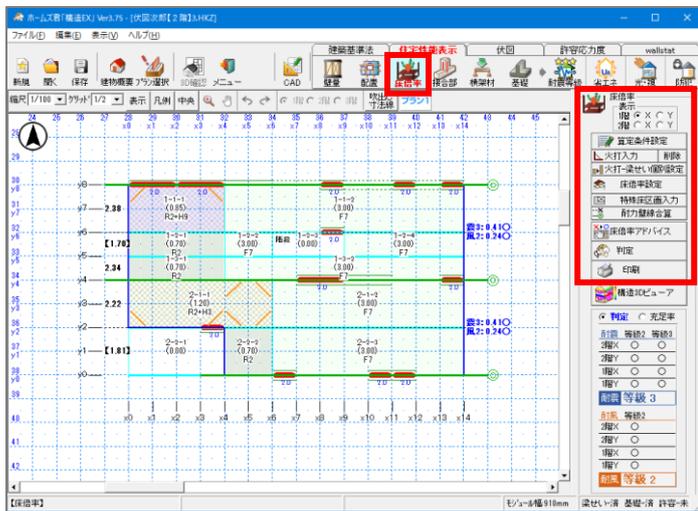
4-4 床倍率

※3階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

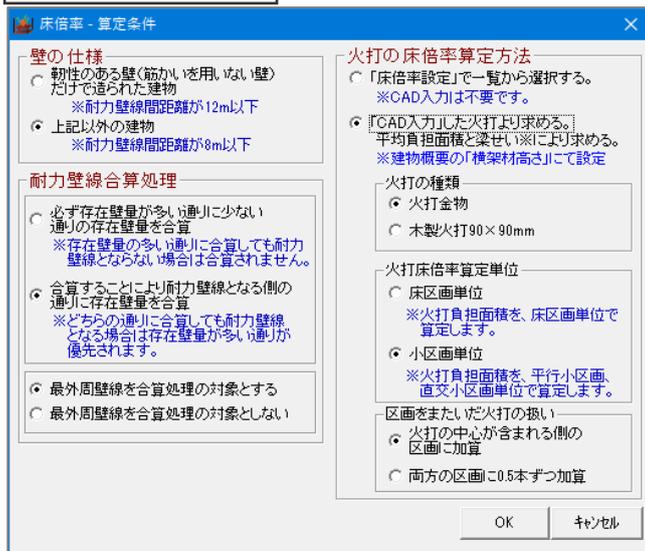
住宅性能表示制度の「構造の安定」に関する床倍率の計算を行います。

■表示階、方向

- 床倍率の場合、各階、各方向毎に区画を検討します。
- 確認したい階、方向をクリックします。



■算定条件設定



■算定条件設定

- ▼壁の仕様
 - 耐力壁線間距離のチェック幅が変化します。
- ▼火打の床倍率算定方法
 - 火打の負担面積のとり方を選択します。
- ▼耐力壁線合算処理
 - 合算方法を選択します。

■火打入力



■火打入力

- 3点入力です。
- ①点目：火打を取り付ける隅の点
- ②点目：火打が取り付く点
※3点目のガイドが表示されます。
- ③点目：火打が取り付く向き

次ページに続く

■床倍率設定

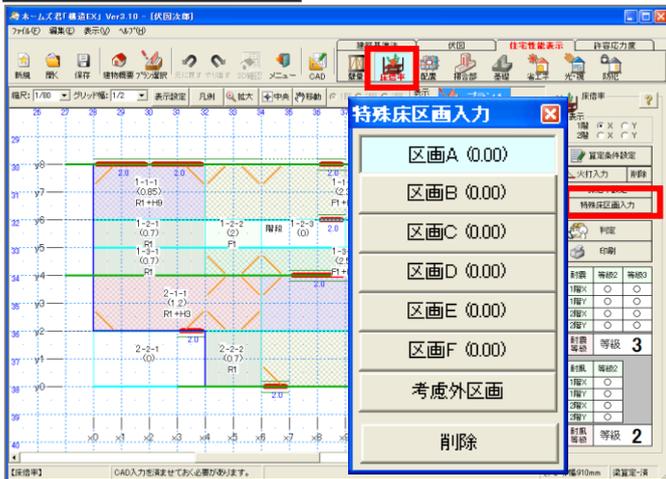


構面	部位	記号	仕様	床倍率	合計
1階屋根	屋根	R9	0.15屋根面仕様2	0.15	2.28
	床	F16	0.50床面仕様2	1.50	
	火打ち	H19	0.60火打ち仕様1	0.60	
2階床	床	F1	0.00構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	2.00	2.30
	火打ち	H20	0.30火打ち仕様2	0.30	
	屋根	R1	0.70寸法以下、構造用合板9mm以上又は構造用1(パネル)238以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.70	
1階床	床	F16	0.50床面仕様2	1.50	2.80
	火打ち	H19	0.60火打ち仕様1	0.60	
	屋根	R9	0.15屋根面仕様2	0.15	
小室裏収納	床	F4	0.40構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	1.40	1.55
	火打ち	H19	0.60火打ち仕様1	0.60	
	屋根	R9	0.15屋根面仕様2	0.15	
1/2階コナ	床	F1	0.00構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	2.00	2.00
	火打ち	H19	0.60火打ち仕様1	0.60	
	屋根	R5	0.20寸法以下、構造用合板9mm以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.20	
特別区画A	床	F2	0.60構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	1.60	2.40
	火打ち	H19	0.60火打ち仕様1	0.60	
	屋根	R5	0.20寸法以下、構造用合板9mm以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.20	
特別区画B	床	F4	0.40構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	1.40	1.70
	火打ち	H8	0.30火打ち仕様、平均真面目径3.2mm以下、梁幅108以上	0.30	
	屋根	R5	0.20寸法以下、構造用合板9mm以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.20	
特別区画C	床	F4	0.40構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	1.40	1.70
	火打ち	H8	0.30火打ち仕様、平均真面目径3.2mm以下、梁幅108以上	0.30	
	屋根	R5	0.20寸法以下、構造用合板9mm以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.20	
特別区画D	床	F4	0.40構造用合板12mm以上又は構造用1(パネル)288以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	1.40	1.70
	火打ち	H8	0.30火打ち仕様、平均真面目径3.2mm以下、梁幅108以上	0.30	
	屋根	R5	0.20寸法以下、構造用合板9mm以上、横丈0.90以下下張り込み、N500150以下	0.20	

■床倍率設定

- 各部位ごとの床倍率を設定します。
(屋根/床面/火打構面)
- 下の「特殊区画入力」で用いる「特殊区画」の床倍率もここで設定します。
- 「この条件を初期値として保存する」にチェックして「OK」をクリックすると、新規作成データの初期値となります。
- 「床仕様編集」ボタンをクリックすると「床面」「屋根面」「桁梁構面」ごとに仕様を追加することができます。
- 「各構面の解説」ボタンをクリックすると画像による解説画面が表示されます。

■特殊床区画入力



■判定



階・方向	耐震等級2	判定	耐震等級3	判定	耐風等級2	判定
1階X方向	5.00	○	4.14	○	7.08	○
1階Y方向	2.50	○	2.07	○	1.51	○
2階X方向	1.77	○	1.44	○	2.02	○
2階Y方向	1.41	○	1.16	○	1.60	○

※充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

【総合判定(耐力壁等距離のチェック)】
耐力壁等距離が0mを越えている部分はありません。(0mの無い壁を含む建物2で判定の基準値は9mです)

【総合判定(耐震等級)】
すべての階・方向・区画で等級3を満足しています

【総合判定(耐風等級)】
すべての階・方向・区画で等級2を満足しています

【総合判定】
総合判定: 適合
耐震等級: 3
耐風等級: 2

■判定

- 床倍率計算の判定結果を確認することができます。

4-5 接合部 (N 値計算/筋かい接合部/通し柱/外周横架材接合部)

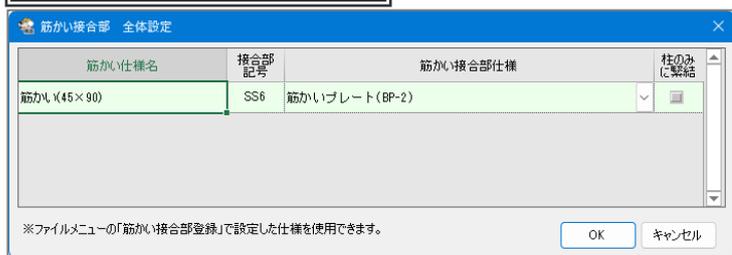
※3 階建では、許容応力度オプションをご利用ください。

※このページは在来工法の接合部についての解説です。

金物工法の接合部については「操作マニュアル (基本編)」をご参照ください。

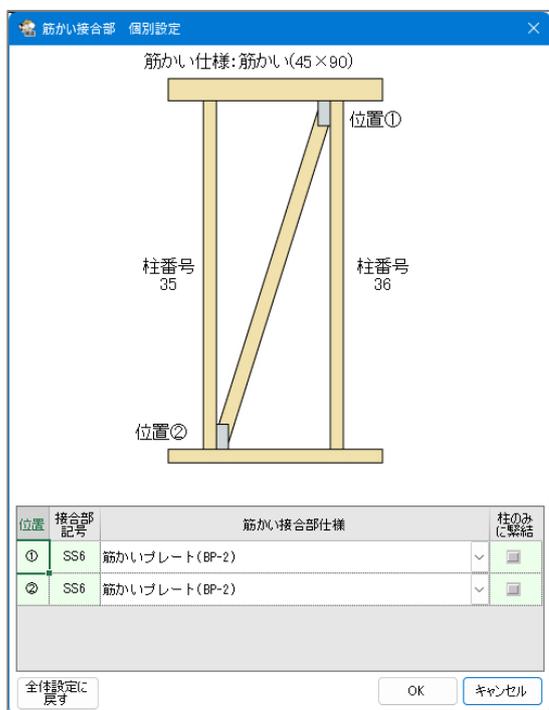
■N 値計算については「3-4 接合部 (N 値計算)」を参照してください。

■筋かい接合部



■筋かい接合部全体設定

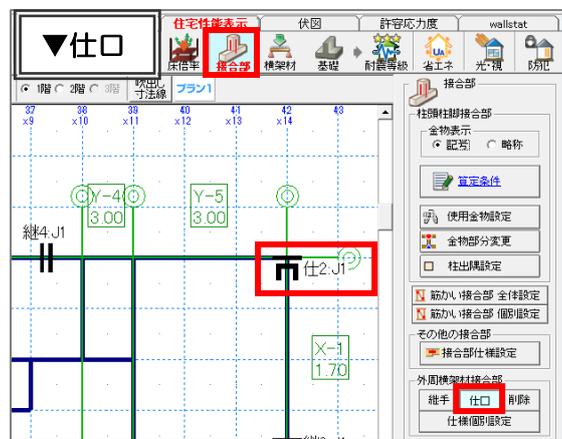
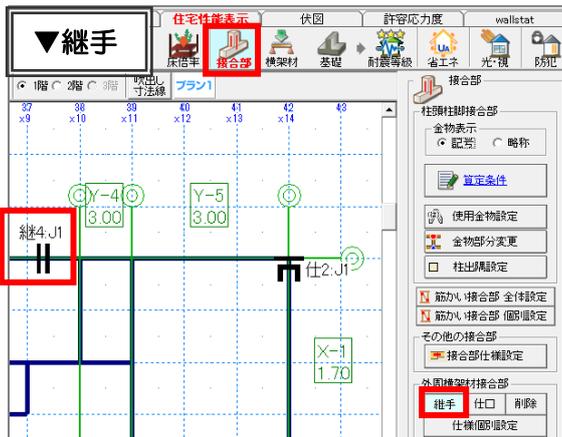
- 建物に使用されている各筋かいに対する接合部仕様を設定します。
- 一覧に無い接合部の仕様を設定したい場合は、「ファイル」メニューの「筋かい接合部」で登録します。



■筋かい接合部個別設定

- 各筋かいに対して、個別に接合部の仕様を設定します。

■外周横架材接合部



■通し柱接合部/外周横架材接合部

住宅性能表示制度において、等級を2以上とする場合に、「通し柱の接合部」および「外周横架材の接合部」のチェックを行います。

※耐積雪等級のみ2とする場合と、全ての等級を1とする場合には必要ありません。

■外周横架材接合部の入力

▼継手の入力

- ・外周横架材に継手を設定します。
- ・2点入力です。

①外周線の指定

※選択されている外周線は赤く表示されます。

②継手位置の指定

▼仕口の入力

- ・外周横架材に仕口を設定します。
- ・2点入力です。

①位置を指定します。

②方向を指定します。

■接合部チェック 判定

接合部のチェック(通し柱/外周横架材)

階	種別	番号	接合方向	規格	平均耐力(N/mm ²)	耐力係数	必要耐力(N/mm ²)	判定	接合部仕様	等級
1	継手	1	上下	XC-1	1.70	0.84	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	2	上下	XC-1	1.70	0.84	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	3	左右	Y-2	2.10	1.02	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	4	左右	Y-3	2.62	1.31	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	5	左右	Y-1	0.60	0.30	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	6	左右	Y-2	2.10	1.02	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	7	左右	Y-3	2.62	1.31	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	1	上下	XC-1	1.70	0.84	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	2	上下	XC-1	1.70	0.84	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	3	上下	XC-2	1.81	0.91	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	4	上下	XC-2	1.81	0.91	1.20	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	5	上下	XC-2	1.81	0.91	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	6	上下	XC-2	1.81	0.91	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	1	上下	XC-1	1.00	0.50	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	2	左右	Y-2	0.60	0.30	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	継手	3	左右	Y-2	0.60	0.30	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	1	上下	XC-1	1.00	0.50	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	2	上下	XC-1	1.00	0.50	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	3	上下	XC-1	1.00	0.50	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90
1	仕口	4	上下	XC-2	0.80	0.40	0.70	J1	2階外周横架材大入孔継手付+1階子断部+2階持梁支物	1.90

■接合部チェック 判定

住宅性能表示モードでは、通し柱及び外周横架材の接合部の判定結果が表示されます。

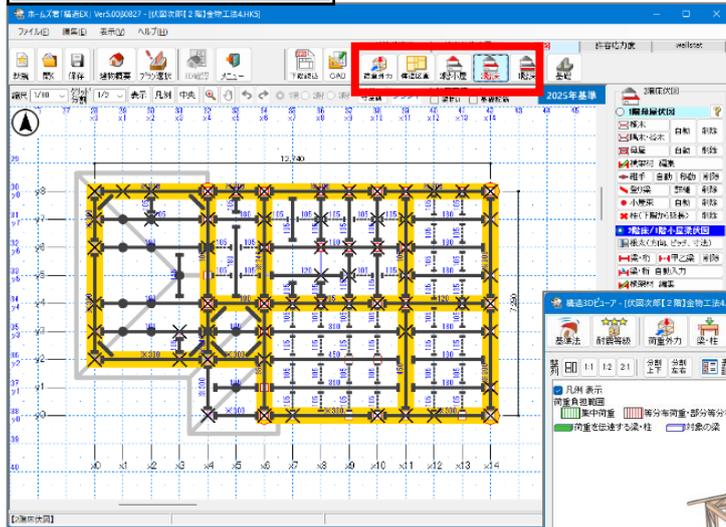
4-6 横架材、基礎のチェック (※オプション機能/別売)

※伏図・梁せい算定オプションをご利用ください。

※3階建では、伏図・梁せい算定オプション+許容応力度オプションをご利用ください。

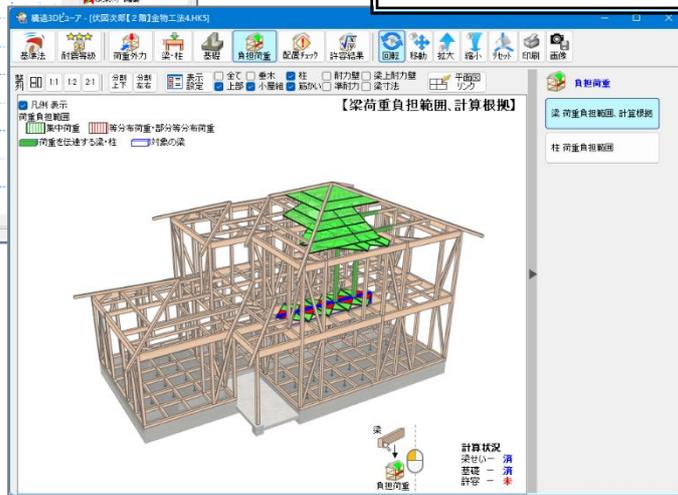
操作方法の詳細は「操作マニュアル(伏図・梁せい算定)」を参照してください。

■横架材のチェック

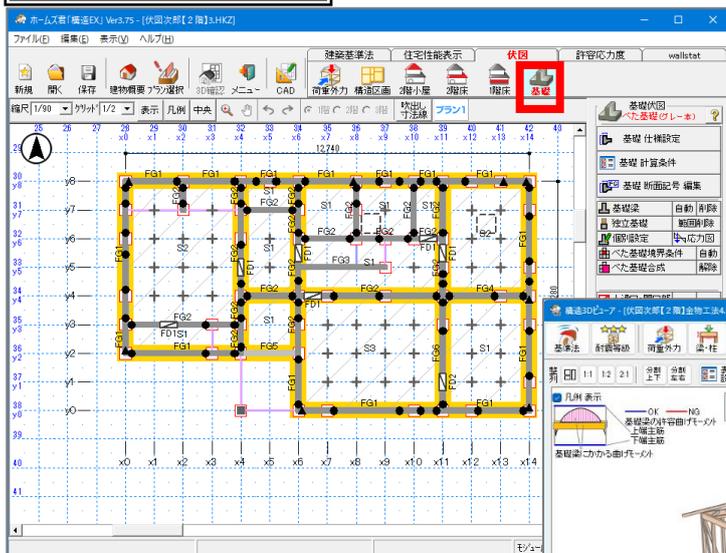


令82条および平12建告第1459号に基づき、許容応力度計算による横架材のチェックを行います。

▼構造3Dビューア

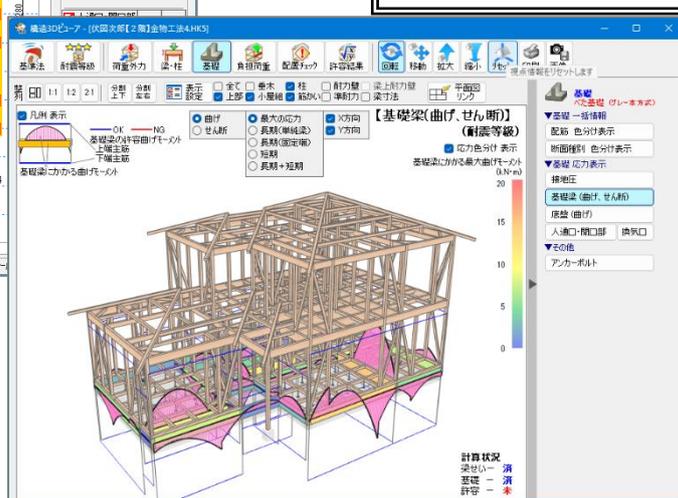


■基礎のチェック



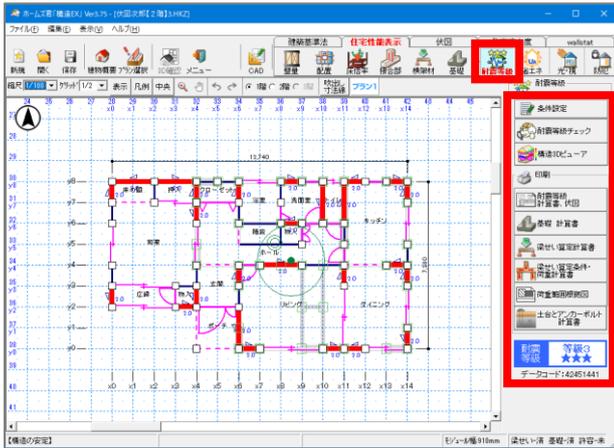
令38条、平12建告第1347号、及び令82条の許容応力度計算による基礎のチェックを行います。

▼構造3Dビューア



4-7 耐震等級チェック

※本機能は、3階建では利用できません



■耐震等級チェック

分類	項目	チェック内容	確認	考察	
建物概要	軒高	9m以下	OK		
	延べ面積	50㎡以下	OK		
	CAD入力	耐震等級	計算書・計画書の記載、基礎の耐力がOK以下	OK	
		耐力壁	耐力壁の長さ、軸組の耐力がOK以下	OK	
基礎	小規模の耐力	耐力壁の長さ	OK		
	基礎耐力	耐力壁の長さ	OK		
柱の配置	柱間隔	柱間隔が規定の場合、水平耐力が負けていないこと	OK		
	柱の耐力	耐力壁の長さ	OK		
床版	床版耐力	床版耐力が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
	床版耐力	床版耐力が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
接合部	柱と梁の接合部	柱と梁の接合部が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
	柱と柱の接合部	柱と柱の接合部が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
基礎	基礎耐力	基礎耐力が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
	基礎耐力	基礎耐力が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
伏図	伏図	伏図が規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		
	アンカーボルト	アンカーボルトが規定の場合、耐力が負けていないこと	OK		

■解説

- 長期優良住宅の認定基準の一つである耐震等級（2000年基準では等級3、2025年基準では等級2）のチェック、および入力内容の問題の有無をチェックします。
- 住宅性能評価機関への技術的審査申請のための一連の計算書、図面を印刷できます。

■条件設定

耐震等級・耐風等級計算書に基礎や伏図・梁せい算定の判定項目を含めるかどうか、および耐震等級チェックの特定の項目についてチェックを行うかどうかを選択します。

■耐震等級チェック

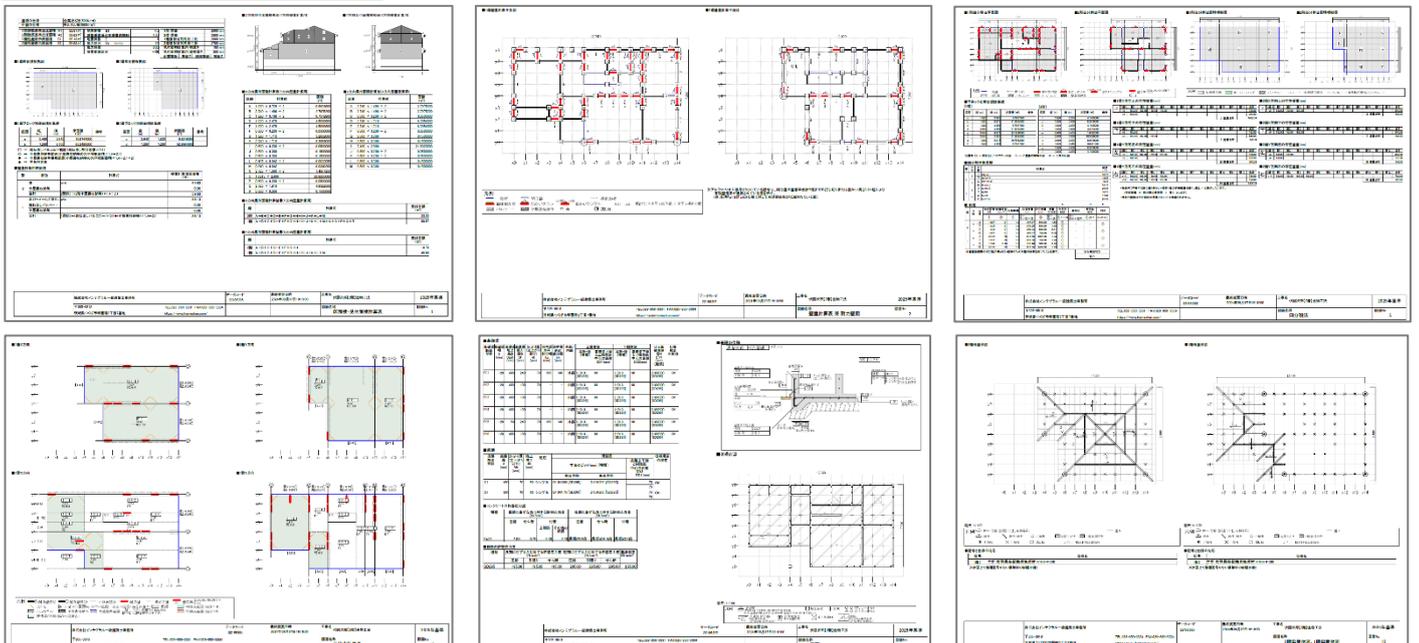
- 満たしている耐震等級および入力に内容のチェック結果を表示します。
- 「NG」となっている行をクリックするとモードが切り替わり、該当する箇所がCAD図面上で強調表示されます。
- 新たに入力や設定を行った場合、再チェックボタンを押すとチェック結果を更新します。

■印刷

耐震等級・耐風等級および梁せい、基礎の計算書を出力します。

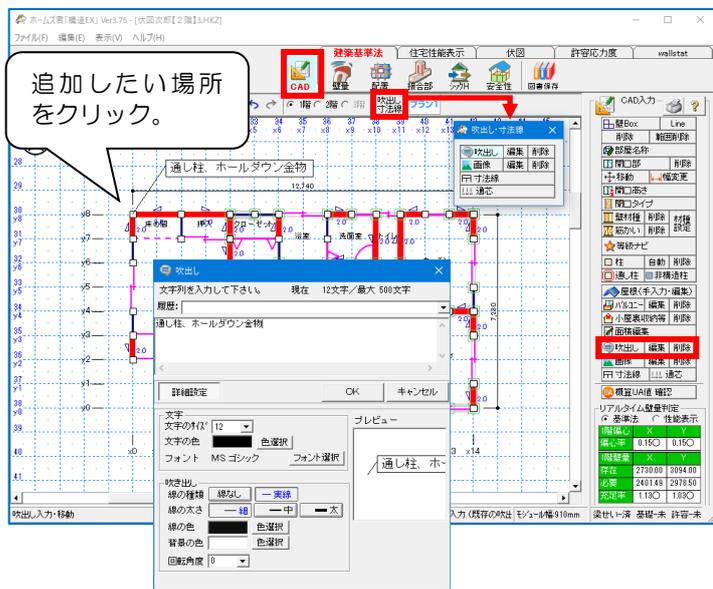
■印刷

▼耐震等級・耐風等級計算書



5. 便利機能

5-1 吹き出し入力



■入力方法

▼入力

- CAD画面の「吹き出し」ボタンをクリックします。
- 吹き出し線を2点入力すると、文字列入力ウィンドウが表示されます。
- 任意の文字列を入力し、フォントや線の設定を行い、OKをクリックします。

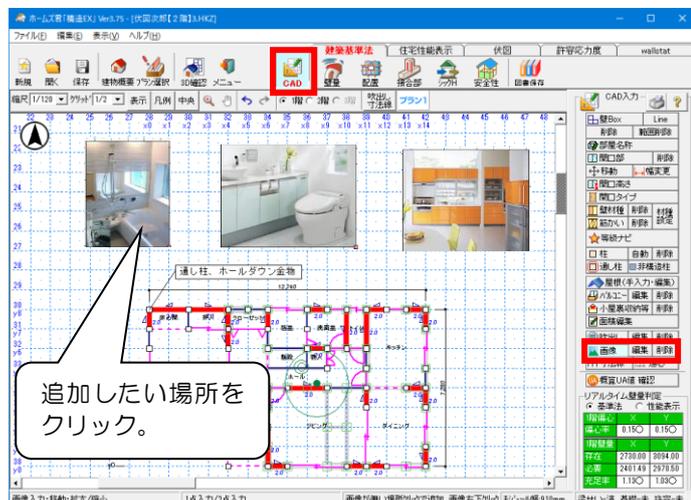
▼編集

- 「編集」ボタンが押された状態で、対象の吹き出しをクリックします。

▼移動方法

- 「吹き出し」ボタンが押された状態で、対象の吹き出しをクリックします。
- BOX内をクリックするとBOXを移動、吹き出し線をクリックすると線の開始位置を移動することができます。

5-2 画像追加入力



■入力方法

▼画像の追加方法

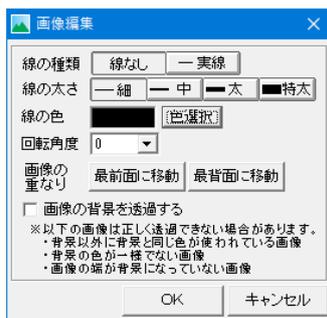
- CAD画面の「画像」ボタンをクリックします。
- 画像を追加したい場所をクリックします。
⇒「画像の選択」画面が表示されます。
- 追加したい画像ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。
- 追加した画像の設定をします。
(枠線/回転/重なり)

▼画像の移動、サイズ変更

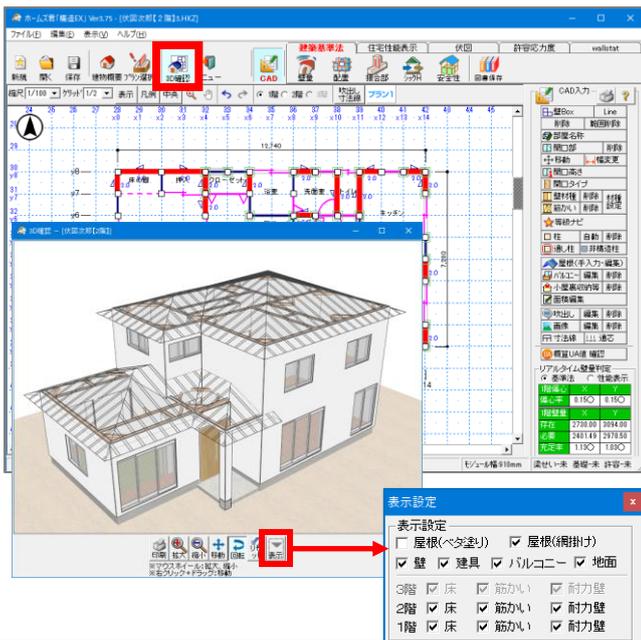
- 「画像」ボタンをクリックします。
- 移動：画像の中心をクリックします。
- サイズ変更：画像右下のポイントをクリックします。

▼編集

- 「編集」ボタンをクリックし、対象の画像をクリックします。
⇒「画像編集」ウィンドウが表示されます。



5-3 3D確認



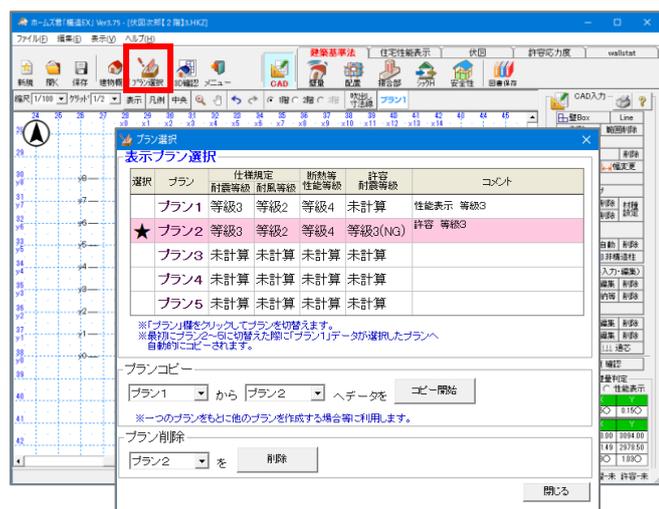
■解説

CAD 入力した建物が3Dで表示されます。入力した建物の形状を、リアルタイムで確認することができます。

■使い方

- CAD画面の[3D確認]をクリックします。
- [回転]：マウสดラッグで3D表示の建物を回転させることができます。
- [移動]：マウสดラッグで3D表示の建物を平行移動させることができます。
- [表示]：表示部位の変更ができます。
- [印刷]：3D表示された建物を印刷することができます。

5-4 プラン選択



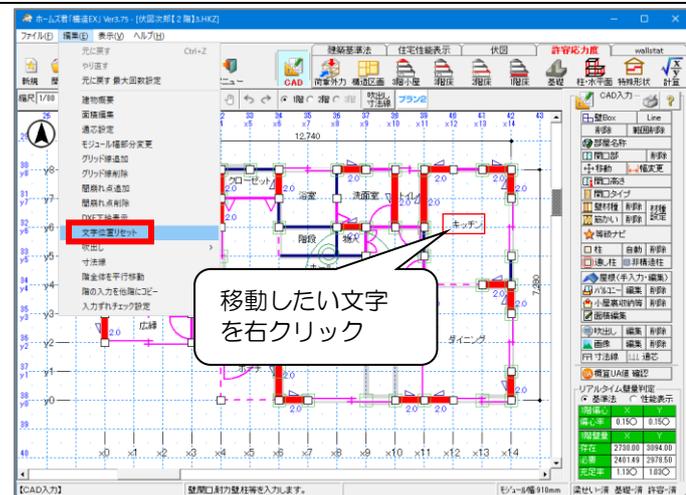
■解説

一つの建物データにつき、最大5つのプランを作成することができます。住宅性能表示の等級毎のプラン作成、または仕様を変えたプランを作成したりする際に役立ちます。また、各プランの等級を一覧で確認することが可能です。

■使い方

- プラン選択画面の「プラン」欄をクリックします。
- 「コメント」欄にそのプランについてのメモを入力できます。

5-5 文字移動

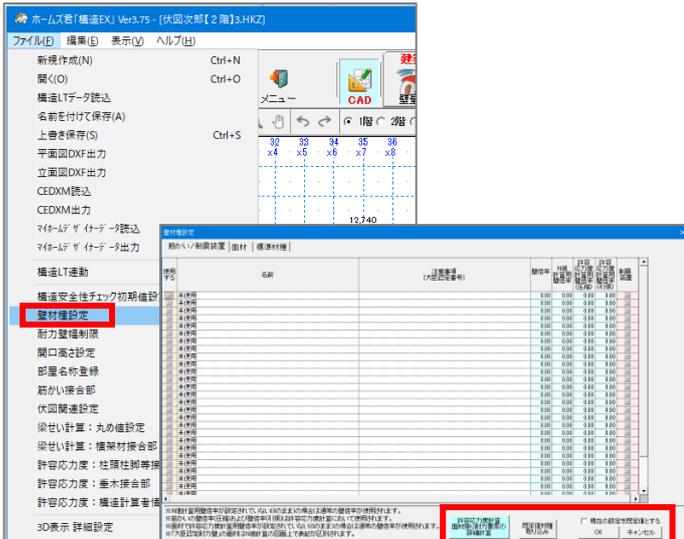


■使い方

- 各画面で、移動したい文字の上を右クリックします。
⇒文字が赤枠で表示されマウスに吸付きます。
- 移動先で左クリックすると確定されます。

※移動した状態を全てリセットするには、「編集(E)」メニューの「文字位置リセット」を選択します。

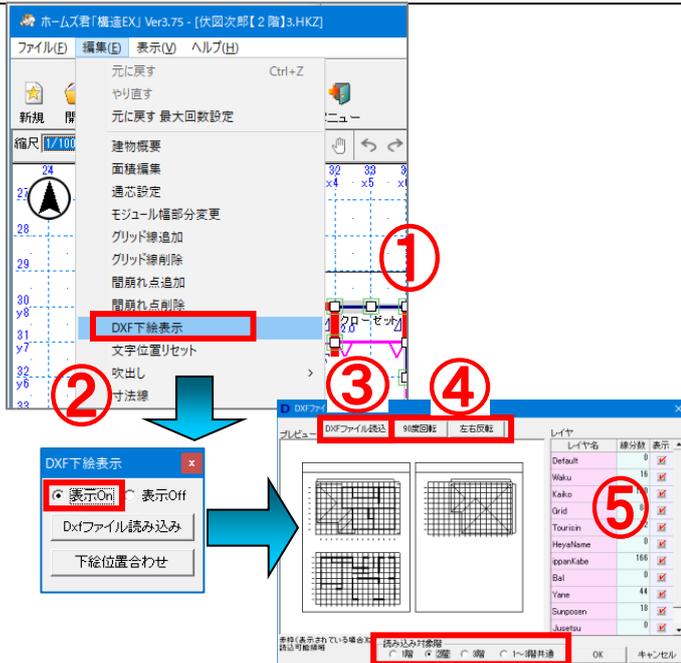
5-6 壁材種設定



■設定方法

- 「ファイル(F)」メニューの「壁材種設定」を選択します。
- 部材の種類に応じて、筋かい、面材の位置に設定を行います。
- 「使用する」にチェックをしたもののみ、壁材種の一覧に表示されます。
- 制震装置の場合は「制震装置」にチェックを付けます。
- 設定した内容を既定値とする場合は、「現在の設定を既定値とする」にチェックを付けます。
 ※既存のデータには適用されません。

5-7 DXF 下絵表示、平面図・立面図DXF出力



■DXF ファイル下絵表示

▼DXF ファイル読み込み

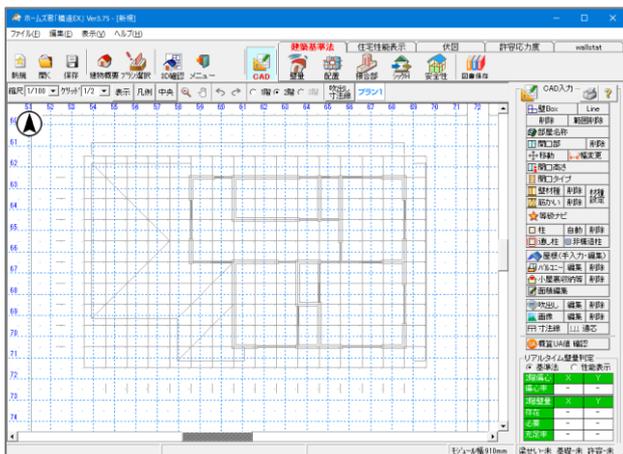
- ① 「編集(E)」メニューの「DXF 下絵表示」を選択します。
- ② 「表示 ON」をクリックします。
- ③ 「DXF ファイル読み込み」ボタンをクリックし、DXF ファイルを選択します。
- ④ DXF ファイルの向きを調整し、読み込むレイヤ、読み込み先の階を選択します。
- ⑤ 「読み込み対象階」を選択します。「1、2階共通」を選択すると、1階と2階に同じ平面図を読み込むことができます。

▼下絵位置合わせ

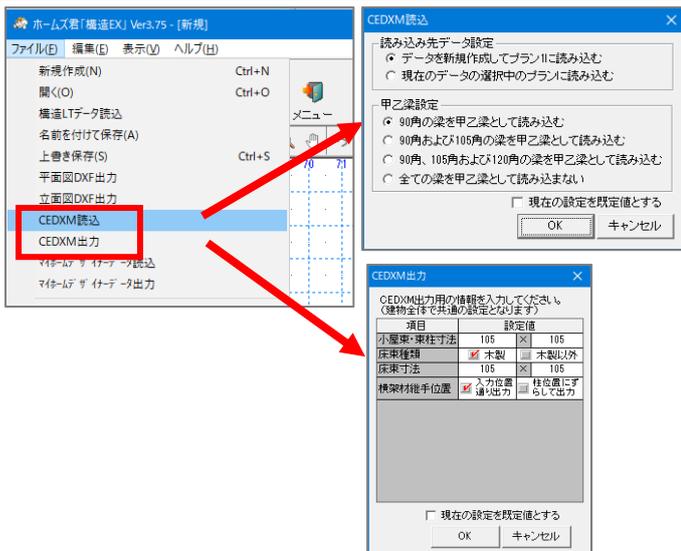
- 1 点目：DXF 図面上の位置を合わせたい点
- 2 点目：CAD 画面上の位置を合わせたい点

■平面図・立面図 DXF 出力

- 入力した建物の平面図・立面図を DXF ファイルに保存することができます。
- 保存した DXF ファイルは、他の CAD ソフトで読み込んで使用することができます。
- 「ファイル(F)」メニューの「平面図 DXF 出力」、「立面図 DXF 出力」を選び、保存先を指定します。
- DXF ファイルには壁／開口部／耐力壁／筋かい記号／部屋名称／通り芯が出力されます。



5-8 CEDXM ファイル読込、CEDXM ファイル出力



■CEDXM ファイル読込

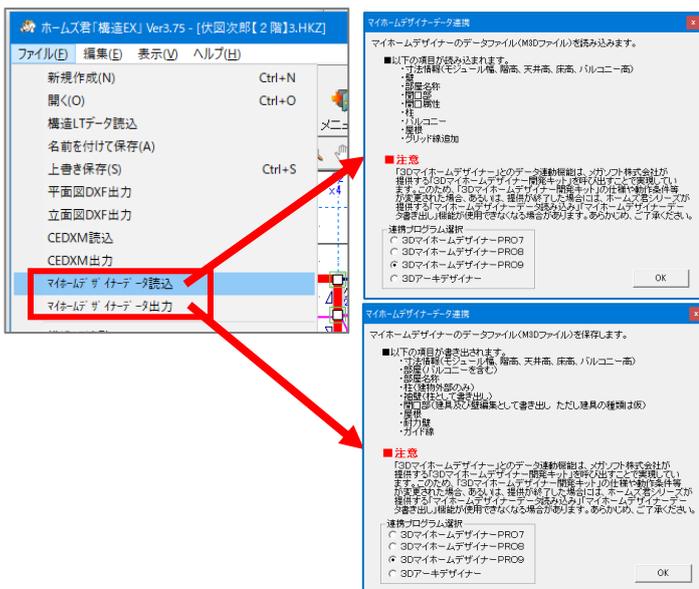
- 他のCAD ソフトで作成した CEDXM ファイルを読み込んで使用することができます。
- 「ファイル(F)」メニューの「CEDXM 読み込み」を選び、読み込みたい CEDXM ファイルを指定します。

■CEDXM ファイル出力

- 入力した建物のデータを CEDXM ファイルに保存することができます。
- 保存した CEDXM ファイルは、他の CAD ソフトで読み込んで使用することができます。
- 「ファイル(F)」メニューの「CEDXM 出力」を選び、保存先を指定します。

5-9 マイホームデザイナーデータ読込、マイホームデザイナーデータ出力

※本機能を使用するためには「3D マイホームデザイナーPRO7」の ver. 7.0.11 以降が必要です。



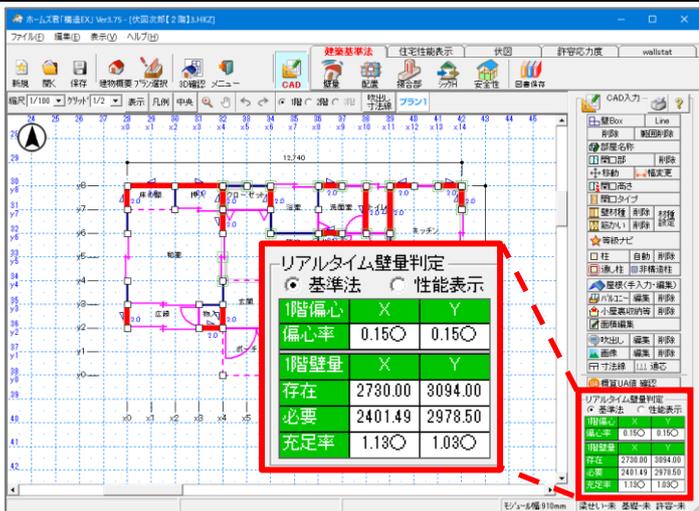
■マイホームデザイナーデータ読込

- メガソフト株式会社製の 3D 住宅デザインソフト「3D マイホームデザイナーPRO7、8、9」で保存されたデータの間取り情報を構造 EX に読み込むことができます。
- 「ファイル(F)」メニューの「マイホームデザイナーデータ読込」を選び、読み込みたいデータファイル (M3D ファイル) を指定します。

■マイホームデザイナーデータ出力

- 構造 EX で入力したデータを「3D マイホームデザイナーPRO7、8、9」に間取り情報として渡すことができます。
- 「ファイル(F)」メニューの「マイホームデザイナーデータ出力」を選び、保存先を指定します。

5-10 リアルタイム壁量判定



■解説

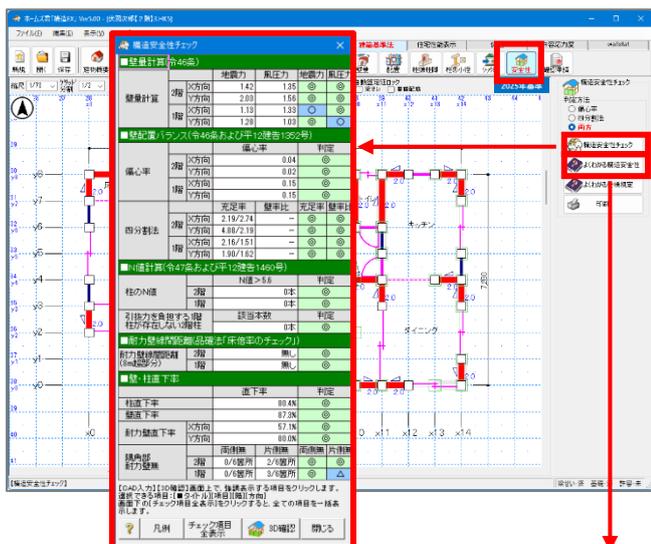
CAD 入力に応じて「建築基準法」及び「住宅性能表示」の壁量をリアルタイムに判定します。

■使い方

- 【基準法】または【性能表示】(ただし、1~2 階建のみ) を切り替えることが可能です。

5-11 構造安全性チェック

※本機能は、3階建では利用できません



■ 解説

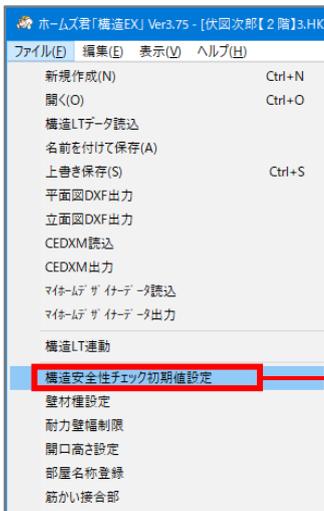
- CAD 入力に応じて、壁量計算、壁の配置バランス、柱・壁の直下率などの構造安全性のチェックをリアルタイムで行います。
- チェック項目の詳細については「よくわかる構造安全性チェック」および「よくわかる仕様規定」を参照ください。

■ 使い方

- ▼ 「構造安全性チェック」
各項目をクリックすると、設定した条件を満たしていない箇所が強調表示されます。
- ▼ 「よくわかる構造安全性チェック」・
「よくわかる仕様規定」
◀ ▶ ボタンで、表示される項目を切り替えることができます。

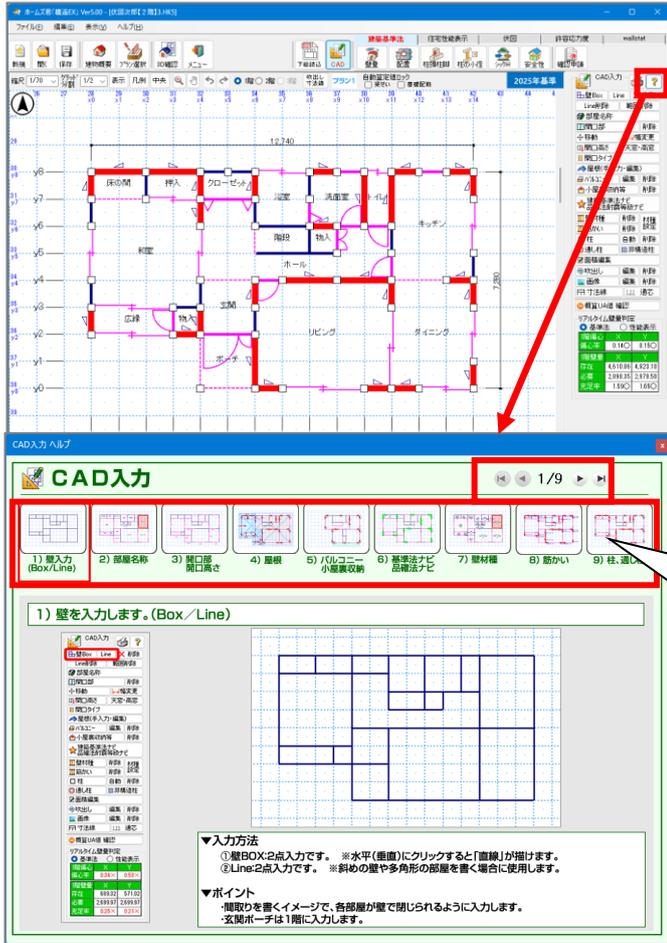
■ 初期値設定

構造安全性チェックが行われる項目の初期値を設定します。
ここで設定した初期値とCAD入力の計算結果が比較されます。



	色変更	色変更	色変更
■ 壁量計算	◎	○	×
壁量計算	1.25 以上	1.00 以上	1.00 未満
■ 壁配置バランス	◎	○	×
偏心率	0.16 以下	0.30 以下	0.30 を超過
4分割法(充足率)	1.50 を超過	1.00 を超過	1.00 以下
4分割法(壁率比)	0.70 以上	0.50 以上	0.50 未満
■ N値計算	△	○	×
柱のN値(5.8kN値となる柱の本数)	0 本以下	8 本以下	4 本以上
引抜きを負担する1階柱が存在しない階柱	0 本以下	3 本以下	4 本以上
■ 壁・柱直下率	△	○	×
柱直下率	60 %以上	50 %以上	50 %未満
壁直下率	65 %以上	55 %以上	55 %未満
耐力壁直下率	50 %以上	30 %以上	30 %未満
隅内部耐力壁無	2 箇所以下	4 箇所以下	5 箇所以上

5-12 ヘルプ表示



■解説

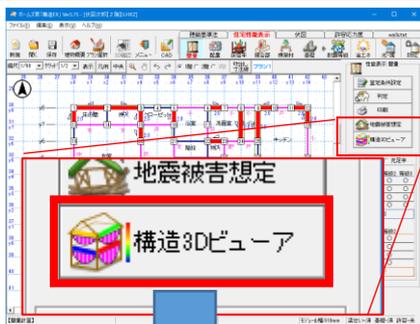
CAD 入力や構造安全性チェックについてのヘルプを表示します。

■使い方

- 各機能の[?]ボタンをクリックします。
- ◀▶ ボタンで、表示されるヘルプ表示を切り替えることができます。

画像をクリックしてヘルプ表示を切り替えることができます。

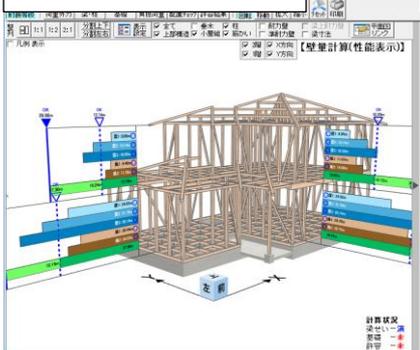
5-13 構造3Dビューア



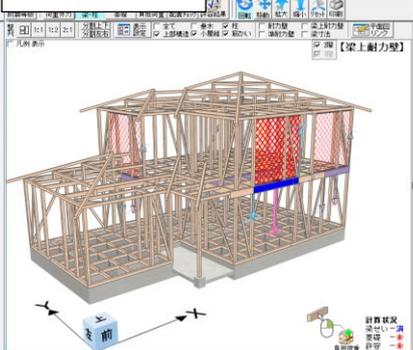
■解説

- 計算結果や検定結果を 3D モデル上に表示し、直観的に理解できるようになっています。
- 建物のどこに力が大きく加わっているか、弱点がどこなのか、どの程度余裕があるのか等の様々な検討が行えます。
- 詳細は「構造 3D ビューアガイド」を参照してください。

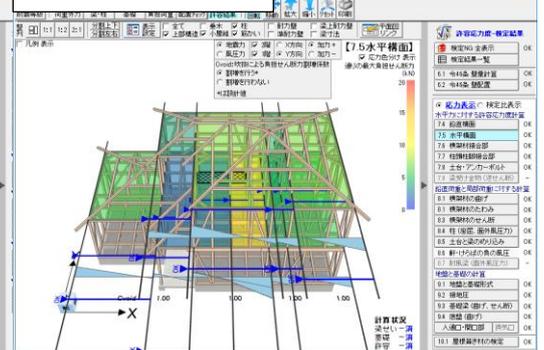
[性能表示 壁量計算]



[梁上耐力壁]



[水平構面の検定]



5-14 サポートへメール送信

ホームズ君サポートセンター お問い合わせフォーム

サポートセンターは原則的に「**すまいの安心フォーラム**」会員登録のサービスとなります。
ご利用の際は「すまいの安心フォーラム」へのお申し込みをお願いいたします。
・「すまいの安心フォーラム」へのお申し込みはこちら
・「すまいの安心フォーラム」への入会状況はマイページからご覧いただけます。

*印はご入力必須項目です。

製品名*

バージョン*

シリアルNo*

安心フォーラム会員番号 『すまいの安心フォーラム』への入会状況の確認はこちら

法人名・屋号*

ご担当者名*

電話番号*

E-Mail*

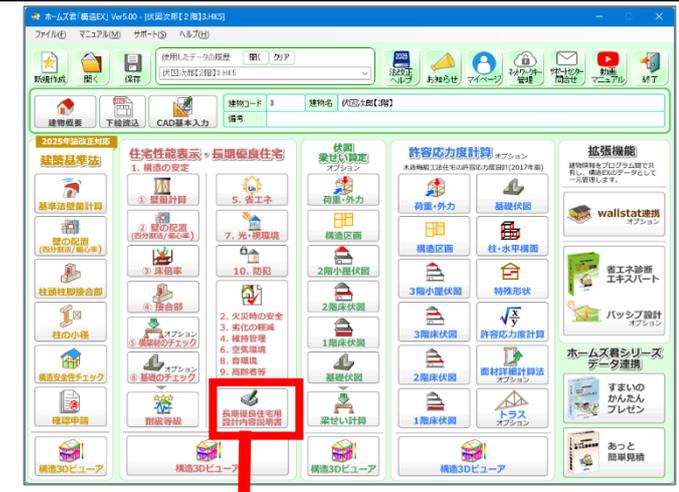
問合せ内容*

添付ファイル*
▼ファイルを選択 選択されています
▼添付ファイルは複数選択できます。 各ホームズ君製品の物件データは、保存先を変更していない場合、以下のフォルダに保存されています。
▼添付ファイルは最大、合計で30MBまで 添付できます。
「構造EX」 C:\HomesEXData
「省エネ診断」 C:\HomesProData
「省エネ診断エキスパート」 C:\HomesEnaData
「あっと簡単見積」 C:\HomesSimpleData
「かんたんプレゼン」 C:\HomesPresentData

- 使い方
 - ・「サポート(S)」メニューの「サポートセンターへ問合せ：フォーム」を選びます。
- ▼製品情報
 - ・「製品名」「バージョン」「シリアル No」は自動で入力されます。
- ▼ユーザー情報(必須)
 - ・「法人名・屋号」「ご担当者名」「電話番号」「E-Mail」を入力してください。
- ▼添付ファイル
 - ・ホームズ君製品の物件データ等を添付可能です。

5-15 長期優良住宅用 設計内容説明書

※本機能は、3階建では利用できません



- 解説
 - ホームズ君「構造EX」にて等級判定を行った内容を、「設計内容説明書」に出力します。Microsoft Excel 形式のファイルにて出力されますので加筆・修正が可能です。
 - ※本機能をお使いいただくには、Microsoft Excel2000 以降が必要です。

ホームズ君「構造EX」

次のいずれかをお持ちですか？

- ・ホームズ君「省エネ診断」エキスパート
- ・ホームズ君「構造EX」省エネオプション (平成25年または平成11年省エネ基準用)
- ・ホームズ君「耐震診断Pro」省エネオプション (平成25年または平成11年省エネ基準用)

設計内容説明書

出力対象選択

- 1.劣化の対策
- 2.耐震性
- 3.維持管理
- 4.省エネ

テンプレート選択

- 1ページ書式
- 2ページ書式

設計内容説明書

項目	内容	評価	備考
1. 劣化の対策	1.1 躯体の劣化対策	○	
2. 耐震性	2.1 耐力壁の割合	○	
3. 維持管理	3.1 屋根の劣化対策	○	
4. 省エネ	4.1 断熱性能	○	

設計内容説明書 (長期優良住宅用 [水通気・特種施工])

項目	内容	評価	備考
1. 水通気	1.1 水通気性能	○	
2. 特種施工	2.1 特種施工項目	○	

■ユーザーサポート

お問い合わせ先：ホームズ君サポートセンター
サービス時間：【平日】10:00～12:00、13:00～17:00
メールアドレス：homes-support@integral.co.jp
電話番号：050-3104-6477
FAX番号：029-850-3334

※お問い合わせ前に、サポートページ(<https://www.homeskun-f.com/support/>)、
ホームズ君FAQ(<https://faq.homeskun.jp/>) もご参照ください。

■ホームズ君マイページ (<https://mypage.homeskun.jp/auth/login>)

▼ホームズ君シリーズのユーザー様全員が利用可能です。

▼できること

- ・お客様の登録情報の確認、変更
- ・ホームズ君シリーズの購入履歴・シリアル番号の確認
- ・最新の更新プログラムの確認およびダウンロード※
- ・「ホームズ君すまいの安心フォーラム」会員専用コンテンツの閲覧※

※「ホームズ君すまいの安心フォーラム」へのご入会が必要です。

(年会費¥40,000 [税別])

住宅性能診断士ホームズ君「構造 EX」
簡単マニュアル

2006年11月 1日 初版発行

2025年 2月 7日 第28版発行

著作/発行 株式会社インテグラル

茨城県つくば市学園南2丁目7番地

TEL:029-850-3331

FAX:029-850-3334

<https://www.integral.co.jp/>

無断転載を禁ず